

瑞穂市合併10周年記念事業 実施報告書

瑞穂市合併10周年記念事業を終えて
～市民と行政のパートナーシップ～



平成26年1月

瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会
瑞穂市 企画部

目次

	はじめに	1
I	実行委員会の結成	2
II	企画事業	3
III	事業実施	7
IV	参画と協働	12
V	実行委員・市職員の感想や意見（振り返り）	18
VI	資料	42

はじめに

瑞穂市合併10周年記念事業（以下「記念事業」）は、平成25年5月1日に合併10周年を迎えるにあたり、多くの市民が参画できる記念事業を実施し、未来に向けて更なる飛躍を遂げることをコンセプトに、「まちづくり基本条例」（平成24年4月施行）の理念である、「市民参画・市民協働」によるまちづくりの実現に向けた取り組みとして企画されました。

イベントへの市民の参加、協力はこれまでも行われてきましたが、市（以下「行政」）が行う事業の実施は、本来行政で責任を持って行うものとされてきたことから、市民は行政が予め決めたプランの一部に携わる形のものほとんどでした。

今回の記念事業では、これまで行政であまり実施してこなかった「事業の企画・運営を市民と行政で一緒になって行う」というスタイルで実施したもので、事業の企画段階から実施段階までを通して市民が関わったという意味では、今回の取り組みは市で初めての試みとなりました。

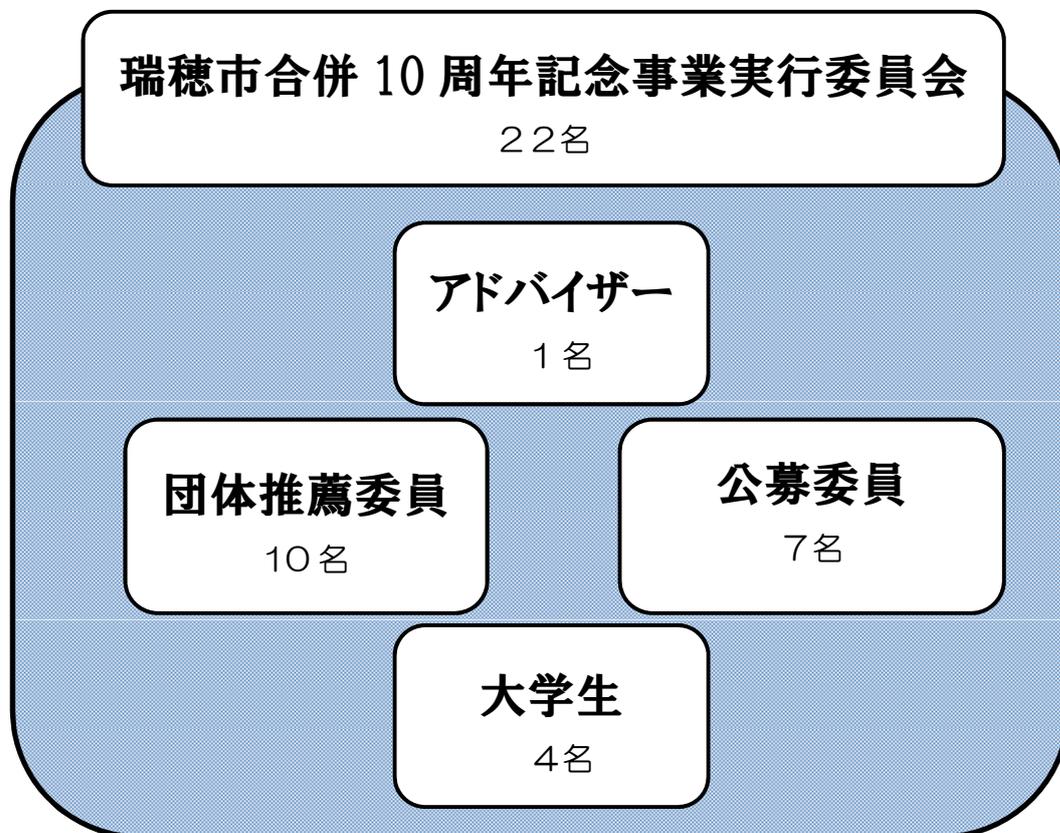
手探りの状態で始まった事業であったことから、市民、行政共に戸惑う場面も多々あり、困惑しながらも最後には実行委員と市職員が協力し、事業の成功に向け一致団結して無事事業を実施することができました。

今回の取り組みで、“市民と行政のパートナーシップ”による新しいまちづくりを進める“ヒント”が見つかったことは大きな収穫であり、これをきっかけとして更なるまちづくりの推進にこの経験を活かして行くことが大切になります。

本報告書は、瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会が企画し、実施した事業についてとりまとめたものになりますが、実行委員会と行政との関わり方や、事業の進め方についてもご報告させていただきます。

I 実行委員会の結成

実行委員会組織



瑞穂市合併 10周年記念事業実行委員会（以下「実行委員会」）は、実行委員会設置要綱（平成24年瑞穂市告示第4号）に基づき、平施24年5月に公募で選ばれた7名と、団体推薦や朝日大学の学生、アドバイザーを加えた総勢22名が委嘱（平成25年7月24日）を受け組織が結成されました。

Ⅱ 企画事業

「つなげよう瑞穂の“わ”」を全体の共通テーマに掲げ、企画する事業について検討を行ってきました。

実施事業の素案が固まったのが、平成24年12月末で、それまでに実行委員会の会議を12回開催し、夜遅くまで議論を重ねました。

その後、実施する事業の予算や内容の詳細について検討を重ね、平成25年1月末にようやく全体の事業概要がまとまりました。

(平成25年2月27日「瑞穂市合併10周年記念事業 事業概要報告」より)

【屋内】 イベント①	瑞穂市合併10周年記念式典
【屋外】 イベント②	みずほ10周年祭
【屋内】 イベント③	市民創作朗読劇「むかい地藏」川と命 永遠の愛
【屋内】 イベント④	わたしたちの郷土を知る写真展

【屋内】= 総合センター内

【屋外】= 市役所(穂積庁舎)南駐車場周辺

開催日	平成25年5月6日(月・休)	
時間	イベント① 記念式典	午前 9時30分開始 午後12時00分終了
	イベント② 10周年祭	午後12時00分開始 午後4時30分終了
	イベント③ 朗読劇	午後2時00分開演 午後3時00分終了
	イベント④ 写真展	期間 4月27日(土)~5月6日(月・休)

【5月6日実施イベントの概要】

【屋 内】 イベント①	イベント項目	イベント内容
瑞穂市合併 10周年記念 式典	オープニング	美江寺観世音 狸々ばやし保存会による 3世代おはやし演奏
	功労者表彰	まちづくり功労者表彰 合併10周年記念特別功労者表彰
	瑞穂市民の歌発表	【実行委員会企画事業】 「瑞穂市民の歌制定」 ＜概 要＞ 市民から公募により選定された歌詞を基に、市民の歌制定 委員会で選定した作曲者が曲を付けた歌を、市民合唱団 (3団体)が合唱し、式典で披露するもの。
	その他	10周年記念DVDの放映 リニューアル“かきりん”のお披露目

【屋 外】 イベント②	イベント項目	イベント内容
みずほ10周 年祭	みずほ10周年祭 (屋外イベント)	【実行委員会企画事業】 「みずほ10周年祭」 ＜概 要＞ 市民と行政が協力して事業を計画し、瑞穂市誕生10周年 を多くの市民が参加・参画しお祝いする祭りを実施するも の。 場所:瑞穂市役所 庁舎南 特設ステージ 時間:12時00～
	オープニング	【屋外特設ステージにて開催】 市長・実行委員会会長のあいさつ キッズダンスチーム「グリッターズ」によるお祝いパフォー マンスなどアトラクション
	お祝い餅つき	お祝い餅つきのパフォーマンス(イベンター) ちびっこ餅つき大会(餅つき体験) つきたてお餅の無料配布(1000食) 時間:12時30分～

	みこしカーニバル	市内にある“おみこし”を担ぎ、瑞穂市の発展、賑わいを生み出します。(本みこし2基～3基を予定) 時間:14時45分～
	沖縄エイサー よさこい演舞 市民総おどり	朝日大学のエイサー、富有樂猩のよさこい、市民参加の総踊りを行い、祭りに参加した市民全体で“ひとつの輪”を作る 時間:15時30分～
	クイズラリー 景品交換	イベント会場にちりばめたヒントを探して、瑞穂市にまつわるクイズに答え、景品と交換 1等:1泊2日温泉旅行 景品交換は16時30分～(終了後撤収)
【屋内】 イベント③	イベント項目	イベント内容
市民創作朗読劇 「むかい地蔵」 川と命 永遠 ^{とわ} の愛	昔話すなみ百話の「むかい地蔵」をテーマにした市民創作朗読劇	【実行委員会企画事業】 「市民創作朗読劇」 <概要> 瑞穂市の歴史、文化を掘り起こし、広く市民に知っていただくとともに、市制 10 周年を記念して、観る者に“感動”を与え、永く記憶に残るイベントにしたい。 開演時間:午後2時00分(開場は30分前) 場 所:総合センター サンシャインホール 入 場:無 料(満員になり次第入場制限) <制作> 台本・演出:三島 幸司 出 演 者:オーディションで選ばれた方市民の方 みずほ朗読の会 朋 富有樂猩・太鼓の衆「雷龍」 巢南富有太鼓保存会 ヤマハミュージカル D.A.S. Company など 企画・制作:合併 10 周年記念事業実行委員会 (上演時間:約1時間程度)

【屋内】 イベント④	イベント項目	イベント内容
わたしたちの 郷土を知る 写真展	市の四季、風景、 歴史的遺産、催 事など市内外の方 にPRする写真展 を開催	【実行委員会企画事業】 「写真展」 ＜概要＞ 瑞穂市の良さをPRできる写真を公募し、展示会を実施する。 優秀作品表彰、おたのしみ抽選賞あり 場 所 総合センター アトリウム 期 間 4月27日(土)～5月6日(月・休)

【その他の実施事業概要】

その他 1	事業項目	事業の内容
ガイドマップ 「かきりんと 探そう」	瑞穂市のガイドマ ップ作成	【実行委員会企画事業】 「ガイドマップ」 ＜概要＞ 瑞穂市住民をはじめ、市外からの訪問者も対象としたガイドマップで、市内名所、史跡等を気軽に廻りながら市の魅力を紹介するためのマップを作成し発行するもの。 作成したガイドマップ(16 ページ程度)は、広報5月号で全戸配布する。

その他 2	事業項目	事業の内容
家庭で出来 る柿料理レ シピ募集	柿レシピ募集と 富有柿のPR	【実行委員会企画事業】 「柿レシピ」 ＜概要＞ 富有柿発祥の地である市の特産品「富有柿」がより身近になり、消費拡大を目指し、家庭で出来る「柿料理レシピ」を募集し、ふれあいフェスタで優秀作品の試食、レシピの配布、表彰等を行い富有柿のPRを行うもの。

Ⅲ 実施事業

イベント① 瑞穂市合併10周年記念式典



5月6日、瑞穂市総合センターサンシャインホールで挙行された「瑞穂市合併10周年記念式典」は、約1,000人の来場者が見守るなか厳粛に執り行なわれました。

○市民の歌制定



市民の一体感と郷土愛をさらに高め、子どもからお年寄りまで誰からも親しまれ、後世に末永く歌い継がれる「市民の歌」を制定する企画として完成した曲「宇宙(そら)へ」は、市民から公募された歌詞を基に、市民の歌制定委員会で選定した作曲者が曲を付けたものです。

記念式典の最後に、地元コーラスグループが合唱を行い発表しました。

イベント② みずほ10周年祭

○オープニングステージ



屋外特設ステージにおいて、「お祝いオープニングステージ」を皮切りに、「餅つきパフォーマンス」が披露され、ついたお餅は来場者に振舞われました。

○みこしカーニバル



市内5つの自治会と朝日大学から計8基のおみこしを集めて行った「みこしカーニバル」には、たくさんの方につり手として参加頂き、イベント会場を所狭しと練り歩くおみこしは、10周年祭を盛大に盛り上げました。

○市民総踊り



祭りのフィナーレには、市内よさこいチーム「富有樂猩」と会場みんなと一緒に“輪”になって踊り、大きな「瑞穂の“わ”」ができたときには、会場全体が一体感に包まれました。

○クイズラリー



瑞穂市に関するクイズに答えて会場を巡り、応募者には豪華賞品が当たる「クイズラリー」には、1,000人を超える方に参加して頂くことができました。

○飲食ブース



飲食ブースには、多くの市内各種団体からご出店頂き、来場者に大変喜んで頂けました。

イベント③ 市民創作朗読劇 むかい地蔵～川と命 永遠の愛～



「市民創作朗読劇 むかい地蔵」は、瑞穂市内の古橋と十九条に架かる上犀川橋の両側に向かい合って祀られている、実在するお地蔵さんまつわる地域に伝わる昔話を題材にした創作の物語です。言葉や台詞に重点を置いてドラマを展開する朗読劇に、市民による歌や踊りを織り交ぜた創作の朗読劇を制作し上演しました。



見て頂いた多くの方々から大変高評を賜り、「涙がとめどなく溢れ感動した…」、「市民で作上げた朗読劇で一体感を味わうことができた…」などの感想が寄せられ、「1回きりの公演ではもったいない」、「もっと多くの市民に見てもらいたい」など、再演を期待する声が多く寄せられ、平成26年1月18日(土)にむかい地蔵の“アンコール公演”が決定しました。

イベント④ わたしたちの郷土を知る写真展



市の四季の風景、歴史遺産など、まち良さが伝わる写真を募集し、市内外多くの方にそのすばらしさを伝え、知ってもらう企画として、「わたしたちの郷土を知る写真展」を実施しました。イベント当日を含め多くの皆さんに展示した写真を見て頂くことができました。

その他1 ガイドマップ「かきりんと探そう」制作



住民をはじめ、市外からの訪問者も対象とし、市内の名所、史跡などを気軽に廻りながら瑞穂市の魅力を紹介するガイドマップ「かきりんと探そう」を制作しました。

その他2 家庭で出来る柿料理レシピ



市民の皆さんに富有柿の魅力をもっと知ってほしいというコンセプトから企画した「家庭でできる柿レシピ」は、富有柿を使った料理のレシピを平成24年11月から募集し、中学生から70代までの幅広い年代からの応募があり、新しい柿料理のアイデアを発見することができました。

みずほふれあいフェスタ 2013 で、柿料理の試食と優秀作品の表彰を行い、最優秀レシピの「柿と明太子のチーズパスタ」は、市内飲食店で期間限定のメニューとして登場しました。

IV 参画と協働

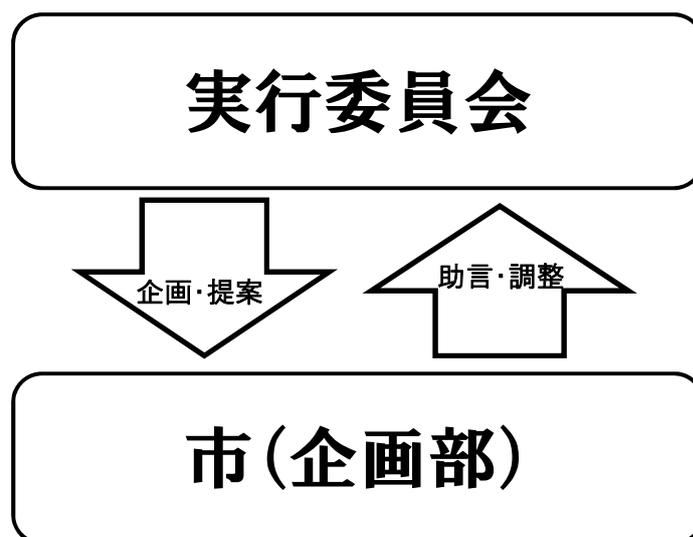
○ 実行委員会の役割

平成24年7月に組織された実行委員会は、市民の力で記念事業を作り上げるため、試行錯誤を繰り返し、活発な議論を重ね事業を進めてきました。

従来 of 事業の進め方は、実行委員会は市の企画に対して、アドバイをしたり、予め割当てられた仕事を手伝ったりする形での参画、協働が多く、事業の実施主体として実行委員会が関わるという点では欠けている部分がありました。

今回の取り組みでは、これまでとは全く違うアプローチとして、市が事業企画やプランを用意しなかった点にあります。

「10周年記念事業を実施すること」と「実行委員会を組織すること」までについては、予め市で企画しましたが、その中身はすべて白紙で、すべてを実行委員会組織に委ねる形をとったことは、これまでにはない事業の進め方でした。



○実行委員会と参画・協働

発足当初の実行委員会では、委員各自に記念事業の企画案を作ることについての共通認識はありましたが、実施する規模や予算、手配や準備に至る部分において、委員にその想定が付かないため、委員各々がやりたいと思う事業を列挙するような議論に留まり、具体的な事業企画を絞り込むことができない状況が続きました。市当局は、この膠着状況にとまどいを覚え、一時は実行委員会に事業の企画案を提示すべきではないかという意見も出されました。

実行委員会の会議には、市（企画部）職員もボランティアとして参加していましたが、市民である実行委員会に事業企画を委ねているという意識から、職員が企画事業について会議で説明したり、意見を述べるものがほとんどなかったこともこうした状況を作った要因であったと考えられます。

この状況が変わったのは、実行委員個々の同じような企画案をいくつかのグループに分け、実行委員と市の職員をそのグループに割り振り、グループ討議を行ってその中でまとめた企画案を全体会議で諮るスタイルにしてからでした。



実行委員会会議のようす

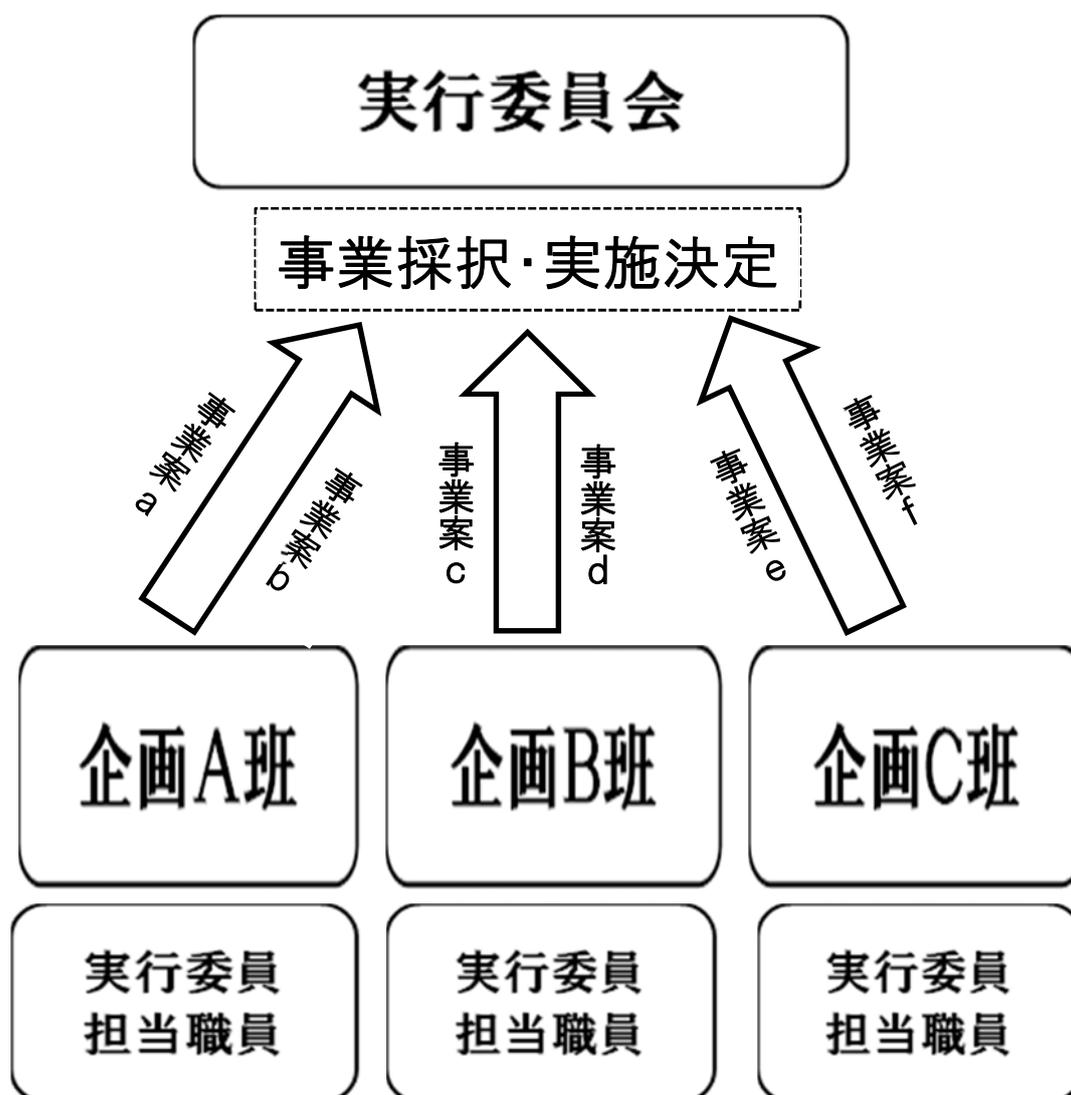


企画グループでの検討

グループ討議では、委員が思い描く事業プランについて、その他の委員と、市の職員が活発に意見交換を行い、一つの企画案として練り上げられました。

その過程において、市民である実行委員がやりたいことをただ発表するだけでなく、その実現に向け考えなければならないことについて、詳細ではないにせよ、予算や条件、手配や準備のことも含めて検討がなされたという点で、これまでの市民参画とは大きく異っていたことが、実行委員会の事業実施主体としての覚醒につながったものと考えられます。

～実行委員会での事業採択・実施決定の流れ～



○実行委員会企画事業の決定

実行委員会で実施する企画事業について、全体会議の場で各企画班ごとにそれぞれプレゼンテーションを行い、実行委員全員が理解した上で事業実施についての採択がなされました。

各企画班を担当する職員は、予算積算、手配や準備が必要となる事項についての説明、注意事項など、行政側でしか分からない部分についてフォローし、事業をより具体化するためのサポート役に徹した結果、平成25年2月に実行委員会として実施する企画事業の全体概要が固まりました。

この段階でイベント開催日まで、あと3ヶ月を切る時期になっていました。

○実施事業の準備

実施事業の準備は、各企画班グループのメンバーと同じメンバーを中心に割り振り、担当職員と相談しながら進められました。

準備段階で各事業の内容については、全体会議でのプレゼンテーションと、会議での議論を経た結果として採択された事業であることから、各委員間の共通認識と理解がなされており、短い期間ではあったものの非常に順調に準備は進みました。実行委員のメンバーも自分達のできる範囲で積極的に準備に参加し、市職員においては行政側の者としての知識や経験を十分発揮することができ、実行委員と市職員のお互いの立場や、状況を理解し協調しながら準備を進めることができました。



市民の歌制定委員会



合唱団による市民の歌の練習



穂積駅でのイベントPR活動



市内保育所でのイベントPR活動



おみこしの運搬作業



式典記念品の袋詰作業



ボランティア説明会



「ぎふチャン」でのイベント告知

○イベントの実施

5月6日のイベント実施に向けスケジュールを組み立て、それに従って準備を進めた結果、無事イベントの日を迎えることができました。

会長を中心に、実行委員個々人が、それぞれの役割に応じたイベント運営に奔走し、市職員もこれに連動した形で一丸となり、一体となった事業運営ができました。

また、「記念式典」、「みずほ10周年祭」には、一般市民のボランティアスタッフをはじめ、飲食ブースに出店して下さった市内各種関係団体など大勢の皆様にご協力を頂き、まさに市民の力で作り上げたイベントになりました。



V 実行委員・市職員の感想や意見（振り返り）

瑞穂市合併10周年記念事業実行委員

「瑞穂市合併10周年記念事業に携わって」

実行委員：江間 安男 さん(会長)

主な担当：全体事業統括/郷土を知る写真展

宙に3回4回と舞った。会場の後片付けも大方終わり解散間近、北倉さんが“会長を胴上げしよう”の声で屋外イベントの皆さんが中心になって胴上げされた。嬉しかった。みんなが笑顔だ。瑞穂市合併10周年記念事業のイベント(行事)が無事終了し成し遂げた達成感と満足感にあふれた笑顔だ。

午前中の式典は多くの来賓の出席を頂き厳粛に行われ、我々実行委員会が企画担当した各種イベントも参加者が多く、トラブルも無く好評な内に行うことができた。特に「むかい地蔵」の朗読劇は大好評で皆が感激した。また、屋外イベント(みずほ10周年祭)の最後で、参加者が手をつないだ会場溢れんばかりの大きな輪は、まさしく開催のテーマ(キャッチフレーズ)である「つなげよう瑞穂の“わ”」の実現であり全員が拍手喝采だった。

瑞穂市民の歌「宙へ」は歌詞も素敵でメロディも良く末永く歌い継がれるに違いない。瑞穂市の由緒ある場所を探索するには大変便利なガイドマップ、特に新しく市民になった人には嬉しい案内書だ。郷土を知る写真展は沢山の人が訪れて街を再認識をした。

家庭で出来る柿料理レシピは多くの応募があり、みずほふれあいフェスタ2013で最優秀賞、優秀賞、かきりん賞の表彰をした、最優秀賞の作品の試食は予想以上の多くの人に来ていただき大成功だった。

平成24年6月8日の自治会連合会の理事会で野田会長に合併10周年記念事業の実行委員に指名され、まったく気軽に引き受けたのが事の始まりだった。

7月27日に最初の会合が有り、会長に任命された事の重大さに気づき身が引き締まる思いをした。まちづくり基本条例もしっかり理解出来ず、最初はどのように進めたらいいか、どう纏めるか、知人も少なく相談できず悩む日もあった。

しかし、実行委員の皆さんは優秀な人達で意見もしっかりしている。私が成功させる気持ちをしかり持てば大丈夫だと思い意見集約と自分の意思をはっきりさせることにした。

いろいろ議論する中で、テーマと開催日そして大枠の事業内容が決まり、特に屋内イベントの民話「むかい地蔵」が河野さんの努力で出来る見通しが付いたのは嬉しかった。

屋外イベントは馬淵さんが積極的に企画してくれて安心していた。朝日大学の学生さんの行動力には頭が下がる思いがした。1月以降は全員が思いを一つにして各イベントの成功に向けそれぞれの立場で頑張って頂き心から感謝しています。

企画部の部長さんを始め優秀な部員の細部にわたる指導、支えが無かったらこの事業は出来なかったろう。本当に協働が出来た。有難う御座いました。又陰の力になって支えて頂いたボランティアの皆様へ衷心より御礼申し上げます。

瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会の行った内容や事柄を、今振り返ると「瑞穂市まちづくり基本条例」の目的や理念が実行でき成功した最初の事例であると思います。岐阜県下の合併記念事業をする他市にも参考になったものと思います。今後どのような事業が市民と市と市議会が情報を共有し参画協働できるか選択して実行して頂き、実りあるまちづくりを期待します。

「皆さんに会い感謝」

実行委員：福野 佐代子 さん(副会長)
主な担当：市民創作朗読劇 むかい地蔵

平成 24 年 7 月に「瑞穂市合併 10 周年記念事業実行委員会」が発足しました。メンバーはほとんどの方が市民からの公募委員で構成され、スタートの時点で私とは意気込みが違っていたことを思い出します。市民の声と市民の力で記念事業を作り上げることを目標にテーマである「つなげよう瑞穂の“わ”」を掲げ、本格的活動が開始しました。

ある晩、ふと年老いた母が十九条と古橋の「むかい地蔵」の話を始めました。そして終わりに「みんな仲ようせんとね」とポツリと語りました。そのことを実行委員会でお話すると、この伝説をご存知の方はほとんどありませんでした。そしてその後、この伝説が市民創作朗読劇に取り入れていただけたとは、私自身思ってもみませんでした。又、この度「もっと多くの市民の方に見てもらいたい」という声にお答えし、再演が決まったとお聞きし、この上ない喜びです。

24 回にも渡る委員会を行い、会議を重ねるごとに皆さんの思いが一つになっていることを実感しました。そして何より、江間会長さんをはじめ、実行委員の皆さんに会えたご縁をこれからも大切にしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

「ガイドマップ「かきりんと探そう」についてー感想と反省と……ー」

実行委員：安藤 由庸 さん
主な担当：ガイドマップ制作

ひよんな事から、この実行委員会に参加することとなった。そのひよんな事が無ければ、そもそもこの記念事業の開催自体を知らなかっただろう。

さて、委員会が組織され、テーマや企画を出し合うということになった。折角の節目の年である。地元について色々考えるいい機会だと思い、とある企画を出した。その企画は、当初、ウォークラリーという形で、市内を巡り地元を知るといことで検討することになった。大枠を決め、見込みを提示して会議にかけると、これがなかなか採用とならない。再検討、再検討の指示が出る。この時、正直言えば、ならば採用しないという決定を出してくれと思ったものである。

最後には、提示されたルートを実際に巡ったうえで可否を決するという事になった。

勿論その結果は、ご承知のとおりである。その後、代替案という形でガイドマップ「かきりんと探そう」の作成が決定された。しかしながら、その決定までに時間が随分かかっていた。

決定後は、さて紹介できるものは何があるか、それらを巡るためのルートは大丈夫か、紙面の構成は、説明書きは、浸透させるための企画は、作成部数は……、と侃侃諤諤の議論である。このときには、参加した学生らの発想には新鮮さを感じた。若いということ、地元に住んでいない(通学はしている)ということからの視点は新鮮だった(採用できなかった発想もあったことは、残念であった。)企画が固まったところで、現地を見に行つた、道順も確認した、資料も捲つた。この時ばかりは、地元の知られざる遺産がこれだけあるのかと実感したものだ。

完成品を見たときは、ようやく形になったこと、何よりも予定していた5月に間に合ったことに安心した。

時間制約と、予算制約のある中、よくも一応の形ができたものだと思った。と同時に、時間制約と予算制約の中で企画を決定し実施するという事の難しさも感じた。

課題として、今後の活用法ということがあるが、私にとっては、地元を見直す好い機会になったと感じている。

この企画も、最後には、市の担当者におんぶに抱っここの形で、非常にお世話になった。市役所内部で

の調整にも奔走されたと伺った。担当となった委員をはじめ、市の担当者に対して、10周年記念事業の一つとして、ガイドブック作成があのような形で完成させることができたことはよかったと思う。

さて、最後に全体について。もしも次に今回のような周年記念事業が行われようとした場合に、私は参加するかどうか。尤も、50周年、100周年なら即参加を決めるだろうが。

今後の協業については、次のようなことについて検討が必要なのではなからうか。

参加者の募集(単に労力の提供を求めるものでない場合。)については、市内諸団体からの充て職は極力慎重にするとともに、単純公募も慎重にすること。また、検討課題を当面は極力具体的に示して、参加者に意見を求めること。そして、時間的、予算的その他の制約も具体的に示し、検討のための下地とすること。参加者もこれらに注意して意見を述べるのが協業成功のカギとなるのではないか。

「”わ“に思う」

実行委員:稲越 鏡彦 さん

主な担当:市民創作朗読劇 むかい地蔵

昭和45年当時(旧穂積町牛牧団地)へ転入、6年後昭和51年の9.12水害にて床上浸水の被災する。やっとの思いで家族共々ライン下りの舟で牛牧小学校へ避難した。

あの時の光景が今でも目に浮かぶ。食料の配分で地元住民と団地住民との間で諍いが起きた。我々団地住民は新参者として、いわゆる「後から入ってきたよそ者」扱いの排他的態度を受けた。

平成15年旧2町合併により“ひとつの街”とはなったものの、何かにつけ「旧穂積町」、「旧巢南町」意識がぶつかる場面に幾度となく出くわした。そんなことから常日頃“人と地域のわ”が念頭にあった。

そして今回、合併10周年記念事業に実行委員として参加する機会を得た。最初のテーマ選定において私の提言したのが「輪・和・話」であり、次いで最終決定の際にはやはり私の提唱した「つなげよう瑞穂の

“わ”」が賛同多数で全体テーマとして採用された。また、実施事業では、屋内イベントの責任者として市民創作朗読劇「むかい地蔵」を受け持つこととなった。この物語は、川を挟んでの十九条側と古橋側両地域の対立により、翻弄される恋仲の若い男女が題材ではあるが、最終的には村人と地域の融和につながる物語である。まるで穂積町(十九条)と巢南町(古橋)を連想させるイメージと重なった。まさに市民と地域の融和と温度差を払拭する絶好の公演であったと思う。この朗読劇を取り上げて頂いた創作者三島幸司氏に感謝の意を表します。この公演が、旧2町の文化と歴史を互いに知り、市民の一体化と郷土愛を高める記憶に残るイベントになったのではないだろうか。私事ではあるが、このむかい地蔵の公演パンフレットに、私の絵が表紙画として採用されたのも記念となる喜びでもあります。

何はともあれ、今回の記念事業は行政主導ではなく、市民の参加、参画により行政と一体化、協働で進めたことで、市全体で一緒にやったという連帯感・達成感が感じられた。

今後とも協働、情報共有の仕組みを確率、更なる市の繁栄、発展につなげるよう、そして瑞穂の“わ”が大きくなることを願う。

最後に行政との協働で、かつて経験もなく、苦労もあったが楽しい「ご縁の会」でもあったと思う。この事業がきっかけとなり、瑞穂の街づくりと“わ”の拡がりにつながる更なる発展を期待する。

「10周年記念実行委員会に参加した感想」

実行委員：井上 珠姫 さん(朝日大学)

主な担当：イベント広報

◎全体会議

会議日時の設定において、夜開催されたので、日中の勤務や講義がある委員にとって良かった。

しかし、固定の曜日だったことから、委員の中には出席できない方もありました。

事前の意見収集や、事後の会議録で補われていたので、多少タイムラグがあったものの、会議自体は滞りなかったと思う。

会長が江間さんで本当に良かった。全ての意見を聴ける傾聴力に長け、要点を押さえて話を整理して下さったので、私も私なりではあるが発言に参加できた。

しかし、最初の頃はテーマを決めるのにかなり時間を要してしまった。これについては、最初に設けられた期限までに決められなかったことなどから、早目に見切りを付け、市役所側にアドバイスを求めれば良かったと思う。

◎事業

各事業ができあがってからの進捗は概ね良好。ただし、事業によっては担当以外の委員が協力しづらい内容のものもあった為、一部進みの遅いものがあった。結果的にはどの事業もやりきることができて良かったが、最初の時点で委員全員で協力できるものにしたいとも思った。

◎広報班

ここでは特に普通の学生ではできないような経験をさせて頂いた。

外向けのポスターやその他広報物の企画や発行だけでなく、委員内の連絡やラジオ・TVの出張宣伝と多種多様に広がる活動で楽しかった。活動では組織の1人として、社交性や納期意識、企画力など多くのことが自分の力として身に付いた。

◎最後に

約1年半があつという間に過ぎたような気がします。

それだけこの事業ではみんな真剣に取り組んでいたんだと思うと、大変だったことも勿論、楽しかったこともこの事業をやり遂げた今では少し寂しい思いです。この活動を後の10年20年先の瑞穂市でも覚えていってくださることを心より願います。ありがとうございました。

「企画運営に参加し、活動してきた感想」

実行委員：北倉 利治 さん

主な担当：屋外イベント(10周年祭)

私は屋外イベントの企画、運営を担当しました。

なかなか会議に出席できず、最初は意見が出せませんでした。屋外で祭りをする企画になり自分の思いが一致しました。やはり当初、穂積・巢南という垣根がありましたが、会議を重ねるうちに塀が下がってきました。同じ人間で同じ考えをみんなが持っている、「語らなきゃいけない」、そう思いました。

ぎふ清流国体ボウリングの広報活動もお手伝いさせてもらいましたが、10周年という瑞穂そのものの行事の方が、面白く、やりがいがありました。

今後はこのような活動は出来ないと思いますが、「なかよしクラブすなみ」が来年度より「NPO法人・なかよしクラブみずほ」に変わり、瑞穂市全体の活動に変わります。なので、現在ある各小学校区、中学校区の活動も大事ですが、市民全体が集まり同じ活動と一緒に出来る環境を作っていきたいと思います、

それには、今回参加された委員さんや、違った委員さんも巻き込んで、今後5年間くらいの事業計画

を立て、本当のまちづくりをしていけないでしょうか。

このままで、この実行委員が解散してしまうのは(もったいない)次のステップになりませんか、行政を頼らず、政治(選挙)に関わらない、若手のキーパーソン出てこいやー！

「瑞穂市再発見」

実行委員：栗田 清 さん

主な担当：ガイドマップ制作

瑞穂市誕生から 10 年目を迎えてわが街「瑞穂市」を見直してみた。

日々見慣れている街の価値や特徴は見慣れてしまうと見過ごしてしまうことがあります。

どの様にしたらわが町の価値や特徴を発見出来るのだろうかと思い自分に投げかけてみた。わが町の地図を広げ平面的に見るのではなく、新鮮な気持ちで俯瞰的な意識を持って見る事とした。

まず歩いてみた、次は自転車で又車で五六川、糸貫川に沿って進み、大きな屋敷林を曲がり、中学校のグラウンドを横に見て、時には馴染みのカフェに寄る。霊峰伊吹を望み進んで行く・・・中山道の街並みも季節ごとに色合いを変える、同じ道であっても朝と夕では印象が違い、歴史ある屋敷の先に新しい出会いを予感させる。

意識を持って散策する事は、見慣れたものが新鮮に見えて再発見につながる。

催事に参加、春の祭りに心躍る。様々な人々、景色に触れる中、見慣れた街が今までと違う新鮮な色彩に感じた。子ども達の姿が躍動し、活力あるふれあいの街。自然に恵まれ、落ち着いて暮らせる街。穏やかで、平凡な街。人口5万余りが暮らす わが街「瑞穂市」この先 10 年後の「瑞穂市」の発展と進化に期待をする。

「瑞穂市合併 10 周年記念事業実行委員会に参加して」

実行委員：河野 秀明 さん

主な担当：屋外イベント(10 周年祭)

市民創作朗読劇 むかい地蔵

平成24年4月に施行された、瑞穂市まちづくり基本条例に基づく最初の大きな事業に参加させていただき、大変貴重な体験をさせていただきました。感謝申し上げます。

私は、瑞穂市商工会の代表として参加させていただきました。瑞穂市合併 10 周年を記念しての記念イベントについて企画・運営をこの実行委員会組織で行うというご説明を受け、少々不安に感じながらも、参加されている顔ぶれを見て、スムーズに進んでいくものと思っていました。

実際に実行委員会が動き出すと、全く白紙からの企画立案ということで、これは大変なことになったと、正直緊張し、気が重くなったことを思い出します。

初めはどうしたらいいのか手探りで、なかなか意見が出なかった会議も、会議が次第に盛り上がっていくのを感じました。実行委員会への単なる出席から意識が変わり、参画し、意見を出し合い、共に考えるという一つの山を越えました。思いや意見が様々出て、大きく膨らんだ企画案をどうまとめていくかが大きな問題となりました。互いの思いを尊重しつつ、限られた人員、期間、時間、予算の中でどう行うのか。その実現可能性を見極めながら取舍選択することに多くの時間を費やし、厳しい議論が続きました。

江間会長の最終的な決断により、最大の問題である意見の集約と企画の決定がなされました。

ここで、二つ目の山である企画の決定という最大の問題を江間会長の強力なリーダーシップで乗り越えることができました。

目標が定まり、具体的な実施案の作成に移っていく頃、季節は既に秋。残す時間も次第に厳しくなる

中でしたが、各企画班にリーダーが生まれ、企画グループごとに議論が深まりました。それによって各委員の距離感もより一層縮まり、まさに“同志”となって行くのを感じました。

なんとか年内に実施案と予算案をまとめ上げ、三つ目の山である市、及び議会のご承認もいただき、いよいよ実施の運びとなりました。

具体的実施案がまとまると、後は最後の山である、市民参画をどう促すかになります。行政や各種団体、企業、また朝日大学も巻き込んで、ボランティアの募集、イベントへの参加を呼びかけ、市民を巻き込んだ記念すべき合併10周年記念事業となりました。まさに、市民、行政、各種団体が一体となつての協働「瑞穂の“わ”」が出来た瞬間でした。

さて、今回の瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会を通して、様々な気付と体験が得られたと思います。市内には本当に多くの団体があり、様々な活動をされている。そして行政との協働により、夢の実現が可能になっていく。その実現を目の当たりにしました。「私たちにも出来た」という実体験は、私たちにとって、また瑞穂市にとって貴重な財産ではないかと思います。

今後の課題として、一過性のイベントに終わるのではなく、今回発掘した瑞穂市の宝とも言える“人”、“文化”、“自然”をどのように活かし、継続していくかであろうと思います。まちづくりの強力なリーダーの育成と、それを支える環境の醸成、そして行政の暖かい支援をこれからも推進していく必要があると思います。

今は小さな“わ”ですが、やがて大きな瑞穂の“わ”となり、ここに住んで良かったと益々思える瑞穂市になるよう期待しています。

「瑞穂市合併10周年記念事業の感想」

実行委員：小島 正輝 さん(朝日大学)

主な担当：イベント広報

家庭で出来る柿料理レシピ事業

10周年祭が終わって、普段の生活に戻ると、何か物足りなく少し退屈な毎日になります。

10周年祭開催までの期間は、それはもう忙しく、毎週何らかの締め切りに追われ、何とか間に合わせ、無事イベントを開催することができました。

趣味で自家製の燻製チーズやスモークハムを作ってみんなで食べたりするのですが、料理を作るのは大変ですが、出来上がったときの喜びはそれはもう大きいです。

実行委員としての活動はそれと似ているところがあったように思えます。

何も決まっていなくてから、ゼロから10まで企画・立案・実行と本当に皆さんで頑張り、事業を成功させました。たくさんの市民の皆さんが来て下さり、喜んで下さる姿を見たときは、本当にうれしかったです。実行委員としての活動と料理の違いをあえて挙げるとすると、料理にはレシピがありますが、委員としての活動にはそれが無かったことです。本当にゼロからでした。

私は、これから社会人になりますが、学生生活の最後を実行委員の皆さんや、市役所の方々と活動でき、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

「瑞穂市合併10周年記念事業を終えて」

実行委員：高田 里美 さん

主な担当：家庭で出来る柿料理レシピ事業

瑞穂市柿振興会会長より依頼され、市制10周年記念事業の委員になりました。簡単に一つ返事で受けたものの、会議に行ってみれば白紙の状態から考えていく大変な会議でした。

当時我が家では、三女が出産を控え、孫を連れて会議に臨み迷惑をかけた事もありましたが、皆さんと打ち解けて少しずつ、前に進む事ができました。

テーマは「つなげよう瑞穂の“わ”」10年経ってもまだまだ穂積、巢南の意識があり、一つになれるとて良いテーマに決まりました。私は柿振興会の代表と言う事で、富有柿発祥の地「富有柿」をもっとPRしたいと思いました。富有柿発祥の地を知って頂きたい。もっと富有柿を食べて頂きたいとの思いから「家庭で出来る柿レシピ募集」の事業が決まり、私は代表となりました。

中村先生、朝日大学の学生さん、市職員とチームを作って取り組み、見積もり、予算を立て少しずつ形となって行きました。同時にいくつかの事業も着々と進み委員の皆さんの10周年を成功させると言う勢いに圧倒されながら、私も段々と気持ちが高まってきました。

待ちに待った本番5月6日。心配していたお天気も良く御来賓、表彰者が続々とお見えになり又、屋外の「10周年祭」はあふれんばかりのお客様にホッとしました。

むかい地蔵、市民の歌、クイズラリー何もかもが大盛況で、実行委員、市役所の方、市民が一体になり大成功でした。今まで参加するだけイベントであったのが、微力ながら参画させて頂き本当に多くの方と知り合う事ができ嬉しく思います。

柿料理レシピ班では本格的に募集がはじまりましたが、私は数多くの応募があるものと簡単に考えていました。11月から8月まで長い期間でありましたが、柿が無くなった1月から応募が無くなりました。

我が家では、応募が少ない事から柿レシピの話題が多くなり、娘とあれやこれやと話しこみ、柿がない時期なので、柿ジャムや柿コンポートを使った料理を考え何回も繰り返し試作や試食をしました。

8月締切、心配していた応募も数多くありホッとしました。審査方法、広報誌、フェスタ配布の原稿作成、優秀作品の試作、料理の練習。着々と準備が進み11月2日、表彰式が始まりました。1位の「柿と明太子のチーズパスタ」は柿とチーズが絶妙にマッチし、出来栄の良い作品でした。

会場の皆さんには300食の試食を早朝より準備し、レシピもお渡しし、市内のとらいあぐるではランチとして出して頂ける事が決まりました。広報みずほには11月、12月と2カ月にわたり、柿レシピの応募作品が特集され、市民の皆さんに「富有柿発祥の地瑞穂市」を知って頂く事が出来ました。これからは、富有柿を料理としても利用して頂き、消費拡大につながれば良いなあとと思っています。

10周年記念事業の活動が農業振興、地域の発展につながるよう祈るばかりです。

「みずほ10周年祭を振り返って」

実行委員：棚橋 和子 さん

主な担当：市民の歌制定

瑞穂市合併10周年記念事業実行委員として委嘱を受けて、平成24年7月27日第一回会議が始まりました。会長、副会長が選出されていよいよ活動開始・・・

海のものとも山のものともわからなくスタート、私も「市民の歌」、「柿レシピ」班として22名の実行委員の中に入れて頂き、市民の声・市民の力で記念事業を作り上げることを目標に、全体のテーマとして「つなげよう瑞穂の“わ”」を掲げ本格的に活動をはじめました。「まちづくり基本条例」の理念に基づき、企画、運営を行う委員会平成25年5月に向け議論の開始、私は市民の歌について今回述べてみました。

合併 10 周年市民の歌を広く市民の皆様に募集を募るにあたり、色々の意見が出てまいりました。☆作るのはいいが、何時、何処で、誰が歌うのか。☆歌の住民への周知はどうするか。☆式典だけの為の歌であってはいけない。☆全ての市民が歌を覚え口ずさむ事が出来る歌。☆後世にも末永く歌い継がれるような歌を作る。等…… まずは市民の歌の歌詞を広く募集することになりました。

「明るいイメージ・世代を超えて歌いやすい、口ずさみやすい、聞きやすい、親しみやすい」ものとしです。こうして応募 16 作品が集まりました。早速制定委員会を開催し、検討に検討を重ねた結果、6 作品に絞り込み、さらに3 作品を選び、作曲は大沼智幸先生にお願いしました。さらに補作を後藤左右吉先生にお願いができました。この中で作詞の部分が決まりました。両先生のご指導で第一位は上嶋昭子さんに決まりました。「流れ豊かなわが市(まち)は 人の輪つなぐ桜みち 心を通わせいきいきと 弾む心に力 湧く 助け合い 支え合い 築こう現在を ああ ふるさと瑞穂」とも親しみやすく、歌いやすい歌だと大好評、うれしいねー。豊かさと優しさを表現し、その中にも力強さも加わり、「よし」と皆さんから「いいねー」の同意を戴きました。

早速大沼先生に曲を付けてもらいました。本当に心弾む素晴らしい曲に仕上がりました。最初にコーラスわかばさんが歌いました。聞いていても、とてもいいと大好評で実行委員会の会議の始めに合唱しました。式典の当日は大盛況だった。市民の歌を作っているところはまだ少ない。私達、「瑞穂市民の歌」が出来たことは最高の喜びと誇りに思います。

あちらこちらからこの曲が流れてる、生活の中に溶け込んで定着する事を期待し、又普及に今後も活動したいと念じて頑張りたいです。

最後に色々とお骨折り下さった皆様に感謝致します。ありがとうございました。

「瑞穂市合併 10 周年記念事業を終えて」

実行委員：田村 悠太 さん(朝日大学)

主な担当：イベント広報

瑞穂市合併 10 周年記念事業の企画運営等の活動を通じて、私は 3 年間ほど朝日大学に通っていたのですが、瑞穂市のことを全然知りませんでした。なので、何気なく中村先生にこの話を頂いたので参加をしましたが、会議の参加当初は右も左もわからなただけに会議に出席しているだけであつたため、何の役にも立てずにいる状態が続いていて全く会議に参加している実感がわきませんでした。しかし、他の実行委員の方や行政の方の意気込みを目の当たりにして、自分がとても甘い考えを持ち参加したことをとても後悔しました。ですが実行委員の会議に参加するにつれて瑞穂市のことを少しずつ理解していき、自分も実行委員の一員となり役に立ちたいと思い、絶対に合併 10 周年記念事業を成功させたいと思うようになっていました。

今回の瑞穂市合併 10 周年記念企画を終えて、瑞穂市まちづくり基本条例にもあるように、文化・伝統・人と人とのつながりなどを活性化することも「まちづくり」としている中で、普段は自分たちの自治会の神輿しか見る機会はないが、今回のイベントでは、市内自治会の神輿を集結させ、何基もの神輿を見る機会があり、市民一体となり大変盛り上がっていました。また、市民創作朗読劇「むかい地蔵」も瑞穂市の昔話を題材にして作られており、各世代の方が楽しみながら昔話に触れることができ、大変よい企画であると感じました。他の企画も多く市民の方々が参加できる企画を催すことができ、より良い「まちづくり」に繋がっているのではないかと思います。

企画を考える過程で自分が感じたことは、会議当初は 5 月 6 日まで結構期間があると思っていましたが、イベント当日まで残り少な期間しかないのに行う企画は大体決まっていたが目玉となる企画がなかなか決まらないことがありました。そのなかで実行委員の方でつくっていくのが前提で企画を決めていたので、あまり行政の方が意見を述べるのが少なかった気がしました。行政の方も企画立案の際に意見をもっと述べ参加しても良かったのではと思いました。

大学生活の中で、大変貴重な経験をさせていただき本当に良かったと思いました。なので、今後このようなイベントの実行委員の募集があれば、朝日大学の学生だけでなく、瑞穂市のことをよく理解している瑞穂市在住の学生も参加していただいた方がもっと良いアイデアが出たかもしれないかなと思いました。今回の瑞穂市合併 10 周年事業が成功して本当に良かったと思いました。

「瑞穂市合併 10 周年記念事業実行委員会に参加した感想」

実行委員：豊田 英二 さん

主な担当：市民創作朗読劇 むかい地蔵

今回のプロジェクトには、2つの狙いがあった。

1つ目は、市民が主役を旗印に先に新しく制定されたまちづくり基本条例に基づく、市民の市政参加による協働の実証である。今回は、市民参加のあり方としては、従来からの進め方である行政が企画から準備したルールに、市民が乗って進む手法ではなくて、市民が自ら自分の考えで企画するところから進めていき、全て市民お任せ型で実行できた。

行政からは大枠が示されたものの、日程から予算まで一任されたことはまさに画期的なチャレンジへ踏み出したものである。意気こもったものの、途中戸惑いつつも行政の指導もあって、参加委員の多角なベクトルを纏め上げることは、各パートをリードされた方々には本当に大変なご苦労があった。

皆さんの旺盛な使命感と熱意によって、企画から実行までを短時間に達成できたことは記憶に残る協働の成果であった。

2つ目の狙いは、10周年記念事業として市民が何を求めているのかを確かめることにある。

10歳の誕生パーティに、市民は何を求めているのかが問われたものであるが、確かにセレモニーとしての意義もあるが、一過性のイベント的なものがどうしても目立ってしまい、10周年ならではのテーマがよく見えなかった。当初の協議の中で、10周年の節目を契機に後に続き発展する可能性のテーマを期待する声があった。

「事業」の語意を辞書で見ると、{…の目的を求めて継続的に行う仕事}とあり、継続が事業の条件となっている。その意味では、一過性行事の発想を乗り越えて、次の節目を目指して継続して展開前進を意識でき、市民活動と呼び起こす、カテゴリーにとられないテーマが欲しかった。

しかし、大方は大成功の最大限評価で、メンバーの一員としてとても誇らしく嬉しいの一言である。

この「10周年記念事業方式」が他のプロジェクトにもどんどん普及して、市民参加が進展することを期待するものである。そのためには、さらなる市民の責務自覚が不可欠であり、さらに取り組むテーマではないでしょうか。

「瑞穂市合併 10 周年記念事業を終えて」

実行委員：名和 めぐみ さん

主な担当：市民創作朗読劇 むかい地蔵

今回、瑞穂市出身で瑞穂市在住、男女共同参画の一環としてということもあり、瑞穂市合併 10 周年記念事業の実行委員を引き受けさせていただくことになりました。初回の実行委員会に出席した際、周囲の方々を見てびっくり。各団体の代表や様々な活動をされているベテランの方が集まる中、当初は私でいいのかしらと戸惑いの気持ちでいっぱいでした。

記念事業として何を行うのか。何度も集まって議論を続け、意見は多く出るもの実際実現させようと思うと難しく、時間をかけて話し合っても現実的には無理だという結論に至ってスタートに戻ることが何度も続きました。多くの人数を動員して、住民の心を動かす事業を行うためには、幅広く壮大な企画力が必

要となることを学びました。

何を行うかが定まってからの団結はとても強く、素晴らしい瑞穂市10周年のお誕生会ができました。

事業終了時の達成感はひとしお。でも、これで終わりではありません。変わらず瑞穂市を盛り上げていきたい。今回の学びを、今後の職務に生かせるよう精進します。

そして何より、会を重ねるごとに、みなさんの人柄や心に触れ、本当によい方ばかり。実行委員をさせてもらわなかったら皆さんとこんな風に時間を過ごすこともなかったんだと感謝しています。

また、この瑞穂市で育って30数年、まだまだ知らない場所や風景、古から伝わる民話や昔話を知りました。これまで足を運ぶことのなかった場所や振り返ることのなかった瑞穂の過去を、立ち止まって見る機会を持つことができました。じんと心が温かく、このまちを今まで以上に身近に感じ、大切にしたい、子ども達に伝えていきたいという思いを育んでもらったと思います。

また逆に、とても大変だと感じていたこともありました。個人的なことではありますが、会議の度に、幼い3人の子ども達を夫に託して会議に出ていくこと。まだまだ手のかかる歳の子ども達ですので、夫が一人で食事をさせ、お風呂に入れ、大変だったと思います。

また、子ども達も毎回私の帰りを寝ずに待っていました。「男女共同参画だよな」と話しながら、家族みんなで頑張った実行委員でした。事業が終了したときには、夫や子ども達にもありがとうと伝えました。家族の“わ”も太く成長したかな。

たくさんの学びやご縁をいただきました。「つなげよう、瑞穂の“わ”」、この実行委員会がつないでくれた“わ”を大切にしたい。皆さんこれからもよろしくお願いします。

「合併10周年記念事業実行委員会に参加した感想・意見等」

実行委員：馬淵 浩史 さん

主な担当：屋外イベント(10周年祭)

瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会の公募委員として参加をさせていただきました。

率直な感想としては、行政と市民、議会が力を合わせて実現した「市民協働のまちづくり」の第一歩が印せた大変意義深く楽しい記念事業でした。

私は、屋外イベントを提案したものとして、大変大がかりでさまざまなリスクをはらむ事業でありながら、行政職員の皆様、実行委員、市民団体、自治会の皆様のご協力、屋外のイベントには多くの市民の皆様参加・参画を得て笑顔や活気を見ることができました。

私の想いとして、記念式典を行うだけでは10周年を瑞穂市民がお祝いしたことにならないのではないかと。また、10周年を迎えたことも十分に認知されないまま過ぎて行ってしまうのではないかと懸念がありました。

そこで時間をかけて、今回の目標、目的をしっかりと位置付けし取り組むことができました。今回の目的は、「つなげよう瑞穂の“わ”」であり、目標は「より多くの市民の参加・参画」です。ここでしっかりと委員の皆様と行政の方々との話し合いや、合意ができ、この目的、目標に向かってそれぞれの委員がそれぞれの立場で責任を持って参加・参画することができました。

その結果として目的、目標を達成する成功のイメージ通りに実施することができたと思います。

屋外のイベントに参加したり、食べたり、遊んだり、写真展に応募したり、朗読劇で瑞穂市の歴史に触れたり、ガイドマップで市の魅力を見直すきっかけになったり、お茶会で茶の文化に触れたり、式典で表彰されたりすることを通じ、瑞穂市10周年を認識し、市行政に関心を持って頂くきっかけづくりとなる事業にすることができたと思います。

私個人としては、長い間瑞穂市に住み、商売をさせて頂くことで大きく成長させて頂いた御恩を返したいという思いで、この事業に参画させて頂きました。少しでも瑞穂市民の皆様へ御恩返しできたことを

大変うれしく思っています。

また、今回の実行委員会では、市職員の皆様にご世話になりました。私を含めた実行委員だけではイベントを開催することもできません。細かい部分に至るまで気を使い準備して頂いた宇野さんはじめとする職員の皆様、駐車場の確保でご尽力頂いた市職員の皆様、式典運営をしっかりとされた皆様のお力のおかげです。市職員の皆様は本当に優秀な方々だと実感できたとともに、瑞穂市の発展に向け協働していきたいと感じました。

これも、こうした機会を与えて頂いた市長さんをはじめとする行政職員の皆様のおかげです。

これからの行政は、財政的にも市民の参画なくしては運営できないと思います。また、市民も行政に関わる機会を欲しています。市長さんの掲げる「市民協働のまちづくり」の実現に向け、市民が関われる機会の提供を今後も期待しております。

意見としましては、今回は市民委員の意見が尊重され、市職員の皆様のご意見が最初の段階ではあまり頂けない状況でした。市民の意見を尊重して頂いたことは大変うれしいのですが、「市民と行政の協働」ですので、市職員の皆様も意見を発言して頂き、共に作り上げていく雰囲気が最初からあればもっとスムーズに進んだのではなかったかと思えます。また、予算についても青天井では事業内容を絞り込むことが難しく、事業数が増えたり、内容も多岐に渡るため、それぞれの委員が2つ3つ掛け持ちして行うことになり、大変負荷がかかったのではないかと思います。

多くの市民の皆様に参加して頂き、今後も協働していくにはその負荷の度合いなどにも配慮が必要になるかと思えます。また、実行委員会の会長、市の責任者、事業担当者が集まる役員会議を設定し、全体会議の前に行えると、もっとスムーズに運営ができ情報も共有ができたのではないかと思います。

乱文、長文となりましたが、改めて市長さんをはじめ企画財政課、秘書広報課の皆様、ボランティアの皆様、各自治会の皆様、実行委員の皆様、参画して頂いたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

これからも瑞穂市に積極的に関わっていきたく思っておりますので、また共に協働できる機会を創出して頂けることを切に願い、私の感想、意見とさせていただきます。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会感想」

実行委員：中村 良 さん(朝日大学 法学部)
(瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会会長)
主な担当：アドバイザー

私は、瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会会長として、アドバイザーという立場で実行委員会に参加しました。また、朝日大学からは、法学部の井上さん、鹿島さん、田村さんそして小島さんの4人が、公募委員として参加してくれました。

実行委員とは違うアドバイザーという立場に戸惑いもありましたが、初期の段階では、皆さんの議論の論点整理に力を注ぎ、事業内容が決まり、企画が具体的に進むにつれ、実行委員会の後方支援に回りました。出来るだけ実行委員の皆さん、そして朝日大学の学生さんが活動しやすいように、企画財政課、秘書広報課のみなさんと相談しながら応援してきました。ただ、時として、市役所の方と厳しい議論を戦わせたこともありましたが。市役所からは、理不尽な要求と思われることも多かった。民間の感覚では、必要だと思われることもありましたが。これらの議論は、相互理解にとっても役にたったと思えます。

市役所からの応援として、特に思い出深いのが、企画財政課、秘書広報課の部屋の奥に、実行委員がいつでも使用出来る部屋を用意してくれたことです。この部屋で、実行委員と市役所職員の方が共同作業をすることが出来ました。

この作業を通じて、朝日大学生の4人が多くの経験をし、他の実行委員の皆さんや市役所職員の方からも頼りにされる存在にまで成長してくれたことが大きな収穫でした。

今回の実行委員会は、瑞穂市まちづくり基本条例にのっとり、記念事業の日時、内容や予算までも市

民が参画し決定するという大きな試みでした。この試みは、成功したと言ってよいと思います。しかしながら、大切なのは今後この試みが継続されるかということです。瑞穂市まちづくり基本条例推進委員会としても引き続き見守っていきたいと思います。

企画部職員（企画財政課・秘書広報課）

「10周年実行委員会から教えていただいたこと」

市職員：森 和之（企画部長）

主な担当：事業統括

「瑞穂市まちづくり基本条例」の施行が、平成24年4月からであることや瑞穂市が合併し10年を迎える年である認識は、市職員として当然ながら持ち備えていたものの、私はその担当部長とは、考えも及ばないうちに月日が過ぎていました。

平成24年7月27日、合併10周年実行委員会が発足した日の会議を今でも鮮明に覚えています。委員のかたをお一人ずつ紹介するときに鹿島さんを間違えて紹介してしまったことやその後、会議の中で実行委員会の役割など、願う事項を説明したら、ある委員のかたから質問がありました。

「式典は市が主体で行うなら、実行委員会のやるべきことは、限られてしまいますが、これが本当にまちづくり条例の主旨に反していないか。」という意見が、今でも心に焼き付いています。

その後、実行委員会は順調に物事が進展するかといえば、そうではなく少し進んでは後戻りするようない進一退のような流れが続きました。委員のかた、それぞれに行いたい企画があり、それがまとまらないことが焦りとなり、行政にも連鎖し伝わってきました。

「人はここに余裕があると、行動にも余裕があります。行動に余裕があれば、ここにも余裕が生まれます。」と行動の両方ともに余裕がなくなり、その気持ちは、お互いに伝播しながら委員会全体に広がりました。

そもそも実行委員会が企画する事業に、正解があるとは限りません。むしろ正しい答えがないのが普通でしょう。その事業における課題を設定し、論理的に考え、結論を導き出す。当たり前のようで大変難しいことであり、計画から実行までお願いし、さらに結果もついてくるから尚更大変です。

それで、そんな正解のない課題に実行委員会の皆さんが、採られた手法は次の4点のポイントであったと思います

- ① まず、それぞれが行ないたい企画、思いつく事業を黒板一杯に書き出す。
- ② 企画をグループに分け、因果関係や現実性、優先順、時間的な観点から課題を出しあう。
- ③ 課題となったことを繰り返し議論しながら、完成となる姿をイメージし論理的に集約し整理する。
- ④ さらに行き詰る時には、一度スクラップし、原点にかえり再度ビルドし針路を決める。

このような手法の繰り返しから遂に議論し考えぬいた企画案をとりまとめられました。この手法だったからこそ実行委員、職員全員が得心する内容でした。

また、この企画を導き出す過程の中で委員さんと職員の距離が近くなった、自然と親しい関係が構築されたのは、朝日大学の学生さんの加入にあったと考えています。

どなたでも学生時代の友人とは、本当に親しいものがあつたはずです。

その理由には、利害関係がなく多くの時間をお互いに共有しているからです。この実行委員会も実に24回まで会議を重ねるうちに、そのように身近な関係になったのは時間を共有した他に、朝日大の学生さんの若さとエネルギーが後押ししてくれたお陰にほかにありません。

私には、今回の実行委員の皆さんのように、10周年記念事業の先行きを見越して点をつなぐことはできませんが、今から振り返るとその線と点が、その事業の成否に関わらずつなぎ合わせることができました。

5月6日記念式典及び企画事業が終わり、5月24日の慰労会で話した内容ですが、「今、何事もなかったかのように月日が過ぎていますが、何事もなく過ぎていることは、成功したからであって、成功して当

たり前といった関わりのない他課の職員もいましたが、私は胸を張って、声を大にして実行委員会の皆さんと、うちのこの職員だったからこそ大成した。」と確信し感謝に耐えません。

私は33年間の公務員生活の中で、数え切れないほどのかたに助けられています、その都度自分の目線を高めてもらってきたように思います。

どなたでも、知らず知らずのうちに、自分の心の中に「大切なもの」を数多く持つておられますが、今回10周年実行委員会に関われたことは、私には「大切なもの」として昇華し、無力な私に信念をもたらしてもらえたことであり、市民協働の第1号として瑞穂市の財産になりました。今後とも合併10周年実行委員の皆様の益々のご活躍を祈念し、今回のご労苦への御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

「10周年記念実行委員会活動の検証について」

市職員：山本 康義(秘書広報課(当時))

主な担当：記念式典

市は、まちづくり基本条例第16条第1項第6号その他市長が認めた参画手続きによって組織された10周年記念事業実行委員会が、企画・運営した結果を振り返り、問題点を洗い出し、第21条に規定するまちづくり基本条例推進委員会に諮問を行い、よりまちづくりに市民が参画できるよう、意見を求め改善に向かうべきであると考えます。

今回は事業の企画の段階で、市が一定の予算を握っていました。市民は自分達で決めた企画事業に対し予算確保ができるかどうかに関心事である。市長は、議会に説明し予算を議決していただくのであるが、市民・市長・議会から出席する実行委員会等の委員が足並みをそろえて計画をたて、総意が形成されない限り不可能である。(実際これを実現しようとしても、議会からは誰が、どういう立場で出席するかという段階で不可能)どうしても、予算枠は夢を一定量に抑えるものである、合意形成の過程で仕組みとして市民にも、一定量が決定されるまでの、理解する時間や説明会等の場所が必要と考えます。

この夢を実現するためには、何のカードを捨てるのかを、まちづくりに参加する市民のかたがたにも考えていただけるような仕組みが必要です。かつて事業仕分けという言葉がはやりましたが、まちづくりに参加する市民の方々にも、事業を潰して新しい事業を創造するような動きができると素晴らしいと思います。

これらの、動きは本来議員が地元で企画会議を開き、条例化し、予算確保という議員本来の行動を取ってもらえれば、あえてまちづくり実行委員会というような市民協働団体が存在しなくても、市民の意見は反映されるのであるが、現実として難しいところがあると感じます。

まちづくり基本条例推進委員会より、市長に対し、市民参加のありかた、予算の問題、また議会の立ち位置と、議会のとるべき行動について、この10周年記念事業の結果を振り返り、前向きな意見をいただけると、よいと思っています。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会に参加して」

市職員：児玉 等(秘書広報課)

主な担当：記念式典

私は、合併10周年記念事業実行委員会には4月からの参加でした。勢いのある流れの中に突然放り込まれ、気が付いたら終わりに近づいていた、という印象を持っています。

“みずほ10周年祭”では、何より心に残っているのは実行委員の皆さんの熱意でした。会議はもちろん、準備などの作業においても自らの意思で進んで取り組んでいるという姿勢が強く感じられました。私は、3月まで生涯学習課におり、さまざまな事業や社会教育団体に関わっていましたが、今回のような熱気を感じたことはあまりありませんでした。10周年という節目の特別な行事だったからでしょうか。

当日は、記念式典だけでなく数々のイベントが一日で開催されたことも驚きでした。私は式典担当ということもあり、屋外でのイベントはじっくり見られませんが、当日はもちろん、準備を含めた打合せや各イベント間の調整など苦労があったらと推察します。

市民の歌の制作・発表はとても良い試みだったと思います。詩もさることながら曲が親しみやすく、いろいろな式典、イベントで活用できるでしょう。また、市民の歌の陰に隠れ目立っていませんが、市民創作朗読劇「むかい地蔵」の中のうたもよい作品だと感じています。どこかで活用できるとよいですね。

個人的には、式典担当としての参加で、周りの職員の応援によりなんとか終えることができましたが、主任者としてのリーダーシップという点で反省しなければいけないところがありました。

10周年記念事業はまだ続いています。が、“みずほ10周年祭”に関して言えば、記念式典をはじめ盛り沢山のイベントを事故なく終了できたことがなによりだと思っています。

実行委員の皆さんは大きな満足感や達成感を感じておられることでしょう。

実行委員をはじめとする10周年記念事業に関わった皆さんの経験は、今後の瑞穂市のまちづくりに大きく寄与するものと思います。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会に参加して」

市職員：西村 陽子(秘書広報課)

主な担当：記念式典

記念すべき瑞穂市合併10周年に実行委員会の職員ボランティアとして参加させていただきました。

個人的には記念式典の事務に携わり、10周年祭の企画面についてはあまり参加できずにいたことを申し訳なく思っています。

市民と行政が協働で10周年を祝う「つなげよう瑞穂の“わ”」を開催テーマに 24回にもおよぶ実行委員会の会議が開催されました。この会議の中で実行委員の皆さんからは、10周年をこぞって祝おうとする熱い気持ちが強く伝わってきました。自分のまちの記念すべき日を、多くの市民が参加し、皆でお祝いできるイベントを企画するなどということは、記念式典を主に考えていた自分の考えを改めさせるものになりました。そして10周年は行政だけが行なう式典ではないと実行委員の皆さんから知らせていただいた気がしました。

10周年祭のイベントは、実行委員の皆さんのあふれんばかりのアイデアが企画となりました。実行委員会の会議の過程では、たくさんの企画が出てきて、この企画が果たしてできるのだろうかと思ったこともありました。企画を絞ったほうがいいのか、そんな風を感じたことも事実です。それでも、たくさんの企画が5月の開催に向けて始動し、当日一つの成果となったことは、まさに実行委員の皆さんと行政が一緒になって力を合わせた結果であり、今後のよりよいまちづくりに向けたよい見本になったと思っています。

私にとってこの職員ボランティアに携わったことは、数少ない企画にしか参加できずにいましたが、それでも市民のかたのパワーをととても身近に感じた時でもありました。

昨今、近隣の多くの市で市制を祝う記念式典が開催されていますが、瑞穂市のように、市民と行政が一体となって企画し、記念事業に多くの市民が集い、祝う市はないと自負しております。

実行委員の皆さんのおかげで、心に残る10周年になったことを、改めて感謝いたします。ありがとうございました。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会に参加して」

市職員：松島 孝明(企画財政課)
主な担当：屋内イベント・市民創作朗読劇

市政の運営や「まちづくり」のために市民の参画、市民との協働というものは、実に重要なことであると思う。そこで、今回の実行委員会に参加した個人的な感想を述べさせていただくと、市の立場としては、「瑞穂市まちづくり基本条例」の基本理念である市民参画、市民協働を推進するための取り組みとして、瑞穂市合併10周年記念事業実行委員を公募により募り、委員会を立ち上げるまでは市が行い、その後は委員会が主体となり企画、立案し運営されていくものだと考えていた。

ところが、いざ委員会が発足し、会議を重ねていっても委員同士で議論はされるが、なかなか結論が出ず、具体的な事業内容すら決まらない状況が続いた。記念式典等との兼ね合いもあったため、やむを得ない部分もあったように思われるが、各委員も実行委員会として自らが運営していこうという意識が薄かったように思う。

だが、実行委員会だけを批難することはできず、携わる市の立場を委員会の立ち上げの段階ではっきりと伝えるべきであったと思う。そうすることで委員並びに携わっていく市役所それぞれの立場を理解することで、心構えも違ったのではないかと思う。

しかし、結果的には無事、盛大に式典を含めた各事業を執り行うことができたのは、実行委員会の各委員が市民の代表であると自覚し、積極的に10周年記念事業(まちづくり)に参画、そして、行政と協働することで成し得た結果である。今後は、今回の経験を活かし、役所に対して“お任せ”ではなく、お互いの立場、役割等をよく理解し、“まちづくり”をしていけるのではないかと思う。

「合併10周年記念事業と市民協働について」

市職員：馬淵 好人(企画財政課)
主な担当：屋内イベント・市民創作朗読劇

平成24年7月に組織された合併10周年記念事業実行委員会は、公募委員である市民と市がお互い協力しながら記念事業を企画し運営する組織で、「まちづくり基本条例」の理念に即し「市民参画と協働の取り組み」をコンセプトとしてスタートしました。

しかしながら、そのコンセプトの「市民参画と協働」という言葉をいくら並べ立てても、その主旨や目的など具体的な取り組みの仕組みが曖昧であったこともあり、これまでの市民と行政の関わり方という点において、今回のイベントで何の違があるのかということでは、市民である実行委員、市の職員相互にはじめは懐疑的であったことを記憶しています。

平成25年5月の記念事業イベントの実施に向け、何を企画し、どのように準備を進めるかということを考える過程において、市職員がイメージする記念事業と実行委員がイメージする記念事業にはその規模、内容ともに大きな違いがありました。

行政当局は、市民のアイデアを最大限尊重するスタンスを一環して貫き、発案された企画に対しては、実施条件やかかる制約、予算など、ありとあらゆる観点から検討し、「実行委員から出る企画は実施する」ことを前提とし、職員はそのサポート役に徹することを申し合わせ事業をまとめて行くことになりました。実行委員を事業毎のグループに分割し、そこに市職員を加えた形で、グループ毎に事業企画書を作成し、練り上げた企画を実行委員会の全体会議で採択していくという一連の行程を進めることにしましたが、限られた時間の中で毎晩遅くまで実行委員と市職員が意見交換し、内容を調整しながら一つひとつ企画としてまとめる作業は、今回の事業で苦労したことのひとつです。

この作業を通して感じたことは、事業の企画は、「やりたい事案を出すことだけではない」ということを

市民である実行委員の方に実感してもらえたことです。

事業案を出し、その実現性を検証し、条件と工夫を加えプレゼンテーションし、事業として採択して行くという、企画から実施までのすべてプロセスを、今回始めて市民と考え、実施することを一緒になって出来たことは、これまでの市民と行政の関わり方とは大きく異なり、行政は市民の意向をよく汲み取り、市民は行政の事情をよく理解したうえで、お互いが希望する方向へ前進せざるため一緒に考え、議論の末一定の落とし所をみつけ出したということであり、市民と行政が意思形成過程から実施に至る部分まで、お互いの立場を理解し、互いに協力できたことは、まさにこれから求められる新しいまちづくりの形を具現化した取り組みそのものであり、今回の事業の成果はまさにその部分にあったと実感しております。

イベントの実施段階では、実行委員が自分達で企画した事業という自覚と責任を持って事に当たっていただけたことにより、すべての面において率先して準備や運営にご尽力していただけたことで、市民の手で造り上げた、市内外にも自慢できる立派な記念事業を実施することができました。

強いて課題を挙げるとすれば、実行委員、市職員とも無償のボランティアとしてこの事業に参加したのですが、市職員は市民なので、市民として事業に参加するのであればよいのですが、職務として考えた場合、市の重要なイベント事業を成功裏に導くことは命題であり、事業実施について行政としてその責を負う性質のものであるのならば、やはりボランティアではなく職務とすべきであり、市民と行政がお互いの知識や経験、特性を持ち寄り、対等の立場で事業を進めるという究極の理想像の実現を目指すべきものと考えます。ただし、行政運営活動に参加すること自体、自分の意思で参加する場合と、そうでない場合とがあり、個々によって参加するきっかけはさまざまです。

そのきっかけと枠組みを上手く構築し、今回の事業で培った協働のノウハウを上手く組み合わせることができれば、今回のようなイベントの企画運営に関する協働にとどまることなく、地域や行政が抱えるさまざまな課題の解決に向けた取り組みなどでも、この経験を活かすことができるものと考えられます。

この取り組みがこれからの瑞穂市のまちづくりを見据える上で大きな布石になるよう今後活かして行けたらと思います。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「合併10周年記念事業を終えて」

市職員：小野 由美子（秘書広報課）

主な担当：記念式典

合併10周年記念事業を身近なものとして実感したのは、今年4月に入ってからでした。すでにイベント当日を間近に控えたこの時期、周りでは着々と準備が進められており、その状況に戸惑うばかりだったのを覚えています。その後、初めて実行委員会の会議に出席し、ここに至るまでを、主に市民のかたにより構成された実行委員のみなさんが中心となり、積み重ねてこられたということに驚きました。それまであまり準備の役にも立てておらず、しりごみしていましたが、自分もできることをしっかりやろうという気持ちになりました。

10周年記念事業が大盛況のうちに終わり、事業を通して、良いまちをつくるためにも、市民の意見を幅広く取り入れることが大切なのだと改めて感じました。市民と行政が、共に考え、互いに理解し協力し合いながら良い関係を築くことで、「自分たちのまち」への関心が高まり、将来の可能性が大きく広がります。これからは、双方が、協働で取り組むことがまちづくりの推進につながるという意識を持つことが必要なのだと思いました。

今回、職員ボランティアとして事業に参加させていただき、市民参画による一つの大きな事業が成し遂げられるところを身近で体験することができて、本当によかったと思います。

「瑞穂市合併 10 周年記念事業実行委員会に参加して」

市 職 員：藤橋 克年(企画財政課)
主な担当：屋外イベント(10 周年祭)

瑞穂市が穂積町と巣南町とで合併して10年が経ち、この合併10周年事業を行うということで、もう十年も経ったのかという思いと、大変なことを行わないといけないということが頭をよぎりました。

これまでの三年間を広域連合で過ごしていたこともあり、合併10周年については市のホームページで見て何かやっているなという程度で、このように大変なことに取り組んでいることを知りませんでした。

振り返ってみると、自分自身は4月の異動で約一月間のことでしたので、他のかたに比べると随分負担が少なかったけれど、実行委員会に参加された方や、職員についても、それぞれ仕事を終えてからのボランティアによる無償での活動で、本当によくやられたと思います。

自分の役割としては、シャトルバスの担当で駐車場係と連携するものでした。過去に例のないイベントであり、JRの駅が最寄りにあるものの、来場者数が事前に見込めない状況で、主な交通手段が車の当市では、駐車場の確保等がこれからも課題になることであると感じました。

当日は、これまでの皆さんのご苦勞の甲斐もあってか天候にも恵まれ、駐車場等の混乱もなく無事にこの記念イベントを終るられたことが大変良かったと思います。

今回は、これまでにない試みだったこともあり、職員の負担が相当にあったと思います。

これからは、市民である実行委員の更なる主導的な活動になっていくことを期待しています。

「合併 10 周年記念事業と市民協働について」

市 職 員：宇野 佳一(企画財政課)
主な担当：屋外イベント(10 周年祭)

＜まちづくり基本条例の関係について＞

本事業は、まちづくり基本条例の理念に基づき、「市民が主体の市民参画による協働のまちづくり」の実現を目指して企画された事業である。市民による実行委員会を作り、そこで事業の企画運営を行って頂いた。結果として企画した全ての事業が形となり盛大に開催され成功を収めたことは、まちづくり基本条例の理念に基づく事業としてよい実績となったと思う。

＜実行委員について＞

実行委員の方が主体になったことで、普段の市の事業では見られない勢いや広がりがあった。アドバイザーである中村准教授のご指導もあり、特に朝日大学学生の委員の活躍が大きく、各事業に積極的に参加して頂き、成功に貢献して頂いた。学生にとっても社会活動での経験を積むことができ、それぞれ恩恵があったのではないか。

＜職員の関わり方について＞

実行委員会が主体になって企画運営するという進め方のため、職員がどこまで企画に対してモノを言っただけなのか迷う場面が多々あった。職員が意見を言い過ぎると実行委員の主体性が無くなってしまおうという意識は、他の職員にも少なからずあったと思われる。私は、基本は議論を見守り、疑問点等が出たときに相談にのるスタンスを取っていたが、H25年5月にイベントを開催するというスケジュールが決まっていながら、H24年12月末まで実際にどのイベントを開催するか議論がまとまらず、時間切れになる恐れが出てきた時には、もっと積極的に介入する必要があったのではないかと思った。「市民主体」を市の職員がどのように捉えていくかは、今後の課題であると考えます。また、今回職員は、実行委員同様ボランティアという立場で事業をサポートしたが、市の予算を使った事業なので、最終的に誰が責任を取るのかを考えたとき職員に責任が発生するはずであり、そうなる職務として参加すべきではなかったかと考える。

<合併10周年記念事業の今後について>

一連の事業の中で、瑞穂市民の歌、柿レシピ、ガイドマップ等は、単発で終わらすものではなく、継続して活用していく必要がある。(このことは実行委員会の会議の中でも出ていた。)どのような形で誰が続けていくのか決めておきたい。

<今後の市民協働事業について>

今回は、市民が企画運営し、市が予算を出す形の事業であったが、市民協働の形には色々なパターンがある。今後市民協働の事業が増えていくと思われるが、どのような事業に対し、どのように市が関わるか(予算や施設の貸出、人的支援等)について、しっかりとしたルール作りまで行う必要は無いが、基本的な考え方があったほうが対応しやすいのではないかと思う。

「合併10周年記念事業から見えてきた瑞穂市の将来像」

市職員：庄司 洋(企画財政課(当時))

主な担当：屋外イベント(10周年祭)

今回の瑞穂市合併10周年記念事業は、市民、各種団体のかた、学生のみなさん、そして行政に携わるものがその立場を超えて(言わば同じ立ち位置で)、ボランティア参加で事業を計画し実行したことに大きな意義があると思う。事業に携わったかたがたは、仕事もあれば家庭もあり、スケジュールとしても時間的余裕の無い中において、市の10周年を祝おうという気持ちのもと「つなげよう瑞穂の”わ“」をテーマに事業を展開し、市民創作朗読劇を始め、合併10周年祭や家庭で出来る柿料理レシピなど感動的で創造性のあるイベントを開催できたことに、瑞穂市の将来像を垣間見たような気がした。

事業をする中で率直に感じたのは、こんなに熱いハートを持った方々が市民の中にいるんだ、そしてこんな案はどうだろうか、こんなこともできるんじゃないだろうか、とてもユニークなアイデアを持った方々が、市民の中にたくさんいるんだということである。

普段、市の職員として業務をする中ではなかなか出会う機会がないが、今回この事業に参加して、そういった人々に沢山出会うことができたのは、市職員としても、瑞穂市に住む一住民としても、とてもうれしいことであつたし、今後の大きな財産にもなった。潜在的に市民の皆さん個々にはアイデアもあり知恵もあり企画力もある方が沢山みえるということである。

今後、市民主体のまちづくりを進めていくにあたって行政に求められるのは、こういった人々をどのようにうまくコーディネートしてネットワーク化し、個々の力を実行力のあるものにするかという点にあると思う。

一人や少人数ではなかなか難しいことでも、ある程度の人数が集まれば実現の可能性が出てくるし、実際に事業を実施してみれば、“自分たちでもできるんだ”という気付きにもなる。

今回の事業は、まちづくり基本条例ができて初めての市民協働での取り組みということで、さまざまな面で行政の負担も多く、行政主体の感も否めない。ただしその原動力は市民の皆さんにあつたと思う。

市民の皆さんの原動力をいかに実効性のあるものにし、そして実現していくかを行政は裏で支えていくことが、大切になってくるのではないか。そして行政の支えが必要なくなったときに、本当の意味での市民主体のまちづくり、“まちづくり基本条例”が目指す瑞穂市が実現するのではないだろうか。

「合併10周年記念事業を振りかえって」

市職員：島田 将志(秘書広報課)

主な担当：市民の歌制定

合併10周年記念事業については、昨年4月、現在の秘書広報課に異動になったことにより関心を持たざるを得なくなったというのが正直なところですが、それまでの税務課のままであったら、「合併10周年」ということさえも認識がなかったかもしれません。当然、ボランティア活動にも参加していなかったことでしょう。ですから、異動して間もない頃、「市民による実行委員会を立ち上げる」という話を聞いたときは、なぜそんな大袈裟なことをするのか、厳かに式典だけやれば十分じゃないかという思いでした。

いざ7月に実行委員会が始まっても、具体的に話が進まない中で、いまいち関心を持っていませんでした。

冬に実施事業が具体化してきて、市民の歌制定事業を担当する頃になってようやく事業に携わっているという実感を持ち始めました。

ところが、市民の歌制定事業に限って言えば、「市民による」とは言うものの、会議等の主体が実行委員であるだけで、実際の段取り、連絡・調整はほとんど事務局としての市職員が行うこととなり、日常業務に加えて大きな負担となりました。それ故、式典において市民の歌が盛大に披露され、無事に終了したときは、それなりの満足感とともに安堵したことを思い出します。

このようなことは、各事業においても散見され、結局は市主導にならざるを得ないことが多々あったかと思えます。勿論、実行委員の皆さんがいなければ、ここまでの事業にならなかったことも事実だと思います。幅広い立場や年齢層の皆さんだからこそできたことも沢山ありました。

「市民協働」。格好良い言葉で、言うは易しですが、規模が大きくなればなるほど、意見をまとめて一つの形にすることは非常に難しいことだと感じました。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会に参加して」

市職員：棚橋 美佳子(企画財政課)

主な担当：家庭で出来る柿料理レシピ

「家庭でできる柿レシピ」の担当となり、11月2日のふれあいフェスタを終えることができました。

H24年11月の募集の開始の段階では、応募があるのかどうかや市内での提供していただけるお店が見つかるのかどうかなどの不安もありましたが、なんとか「カフェテラス とらいあんぐる」さんの協力により、期間限定で最優秀賞の作品をメニューとして出していただけ、当初の富有柿の普及という点では大成功だったと感じています。フェスタ会場で配布した「本日の柿レシピ」というミニ冊子は、ふつうのA3サイズ用の紙にちょっとした切込みを入れただけで本のように冊子ができあがるタイプのもので、柿レシピ班でアイデアを出して手作り満載のレシピ集となりましたし、お客様の中にはこのレシピ集の折り方にびっくりされて、喜んでもらったこともあり、レシピ班としても全員が大変満足しています。

最優秀賞が決まってからは、フェスタでの試食会に向け、何度も調理の練習をする機会を設けました。応募者本人による調理実演、10周年実行委員会での試食会や本番さながらの練習も行いました。市役所で調理実習を行うというのが、新鮮でもあり楽しくもあって、今後の市で行う新たなイベントや企画財政課で行うイベントにもこういった調理実習のような参加型のイベントを行いたいと感じました。

10周年記念事業実行委員会を通し、いろいろな関係団体や交渉、ボランティアのかたへの指示など大変なことも多くありましたが、なんとか無事終了できてほっとしているのと同時に、市民のかたと一緒になって作っていくというのは、大変時間もかかり難いと感じましたが、いろいろなかたと知り合えて有意義なものになりました。お疲れ様でした！

「市民と一部行政の協働」

市職員：森川 正(秘書広報課)

主な担当：記念式典

式典で上映するパワーポイント作成を主に担当したので、個人的には「市民と行政が協働」のテーマには到底及ばなかったと感じています。異動したばかりで通常業務におわれてしまい、10周年事業は二の次になってしまったことは否めません。これらのことから、傍観者としての意見を述べさせていただきます。

まず、初めて参加した会議において、開催までの約1か月という期間の短さへの焦りと、急拵えの資料に苛立ちを覚えたことを思い出します。確かに、構想の段階から会議に出て携わっていれば理解できた内容かもしれませんが、異動してすぐ担当となった職員には説明が不十分で不親切に思えました。

また、企画部から他部局へ異動となった職員との引継がうまくいかない部分がありました。そもそもその職員がいつまでこの事業の担当であるのかが私にとっては曖昧でした。誰に聞けば分かるのかさえ分かりませんでした。そういった誰が主導となっているのかわからない場面がいくつもありました。同時に、ある人だけが、仕事を抱え込んでいるような印象も受けました。重圧のかかる仕事、責任の重い仕事、事務量の多い仕事、それぞれの配分が偏っていると感じました。このことから、異動時期と業務の繁忙期とが重なる4月の年度始めに、大きな事業を行うことの難しさも学びました。

その他には、市民で結成される実行委員会は大いに盛り上がったのに対し、行政側は無理難題に困惑する様子がしばしば見受けられました。市民の要望だが行政では実現困難なもの、行政にできるが市民にとってはどうでもいいこと、市民にしかできないこと、様々ありますが、そういったお互いに「できるもの、要望したいもの」等の間を上手につなぐ媒体形成をどうやったら良いかは、今後の課題であると思います。

下記に意見をまとめます。

○情報の共有が不十分だったこと。

○指示が明確に出されていなかったこと。また、出すことのできる人がいなかった(曖昧だった)こと。

○市民と行政をつなぐマネジメントの役割を果たす媒体がなく「協働」が十分に実現できなかったこと。

最後に、この試みが基盤となり、市民と行政の協働(まちづくり推進のため、お互いの立場を理解し、協力して事業を推進する)の第一歩となることを願います。また、担当職員のみならず幅広く意見を求め、そしてその1つひとつを精査し、良いアイデアを取り入れることで、次の市の事業につながる礎としていきたいと思います。

「市民との協働企画の難しさ」

市職員：平林 玲央(秘書広報課)

主な担当：広報・ガイドマップ作成

瑞穂市合併10周年記念事業を終え、達成感よりも難しさの方が印象に残っています。私は、ガイドマップ企画を主として携わらせていただきましたが、市民の皆さんの自由な意見と市役所の思いがぶつかり、その度に停滞することがしばしばありました。協働を目的として始めた企画でしたが、思いの違いに対立してしまい、実行委員会でも実行委員側と市役所側がはっきりと分かれていたように思います。結果としては、ひとつのものを作ることができ、達成感はあったのですが、今思い返すと対立していた印象の方が強く残っています。その要因の一つとしては、市役所側の予算の見解が定まらなかったことがあるのではないのでしょうか。市役所側が見解を持っていなかったことで、はっきりと意見を言えず、委員に苛立ちがあったと思います。私は、委員会の序盤で概ねの予算規模を提示しなければならなかったと思っています。しかし、市民協働を目指すこの企画としては、相反する見解だとは思いますが、その代りとして、あと半年早く実行委員会を発足し、前年度から予算積算を行うべきだと考えています。

ガイドマップ企画は、当初ウォークラリー企画として立ち上がったものです。ガイドマップの発行は、成功だったと思っていますが、それに至るまでの過程は苦労しました。これは、参加した実行委員の方も感じているのではないのでしょうか。その過程は、無駄ではなかったと思いますが、これについても、予算規模及び企画規模に限界があることを当初からよく検討していれば、会議の回数は減らせたでしょうし、他の検討ができたのかもしれない。

私はガイドマップの他に、広報も担当していたのですが、悔やまれることがあります。それは、「むかい地蔵」の再演です。再演が決まり、来年の上演が楽しみです。広報の周知不足故の再演だと感じています。率直に「もう一度みたい」という意見もあるかもしれませんが、「上演を知らなかった」という意見の方が多いでしょう。言い訳になりますが、広報紙以外の周知をする時間が全くありませんでした。今回のような大規模なイベントの広報に携わらせていただいたので、効果的な広報のあり方については、勉強になりましたが、反省もしているのが正直なところです。

最後に、全体を通じて思っていることですが、実行委員会で自分が納得がいかないことがあっても、どこか自分の意見をあえて言わないようにしていました。それは、私が市役所側(事務局)としての立場を意識しすぎたことによるものだと思います。本当の「協働の形」は私自身、わかりませんが、お互いに意見を言い合えるように意識を変えていくことは大切なことだと感じています。市民側は協働を進める準備は十分整っているのに、市役所の職員が変わらなければ、市民協働のまちづくりは難しいのかもしれない。

「市民協働の政策決定プロセスに必要なこと」

市職員：望月 宏太(企画財政課(当時))

主な担当：家庭で出来る柿料理レシピ

今回の市民協働型の10周年事業における政策決定の方法は非常にあいまいなものが多かった。

「市民に決めてもらう」という理想が先走り過ぎて事務方としてどこまでやるかを決めていない部分が多かったように思われる。そのような状況の中、委員の方々に意見を求めてしまえば、突飛なものが出てきやすいし、出た意見に対して、できないと答えていては委員からしても、「何をすればよいのか」という疑問が出てくるのは当然のことと思う。何をするかの大枠は作った上で委員に意見を求めなければいけないというのが分かった。さらに、このような会議における職員の立場を明確にしなければならないと考える。当初の会議では「市民に任せる」のが基本的なスタンスだったが、委員だけでの話し合いでは限界があり、職員も意見を言うようになった。我々としても、どこまで意見を言うべきか分からず、委員も職員がどこまで関わるのかという状況では話し合いが進んでいかないのは仕方ないと思う。職員の立場を明確にしておくことが今後、このような会議に必要なことであると思う。

また、委員だけで施設の調整をするのは無理があるので、積極的に職員が関わる必要があるものの、施設担当課との情報の共有が図れておらず、どうすればよいのかという問い合わせを担当課から多く受けた。担当課との調整の前に、全体がどのように動きたいのかを把握しきれていない部分があり、調整をする以前の問題が多かった。事業の運営を総括するものと役所内の施設利用の総括を行う立場の人を作る必要があるのではないかと考える。

今回の合併10周年記念事業実行委員会を経験して、上記の3点が改善しなければいけない部分だと考えた。今後、このような事業を行うなら、市で決める部分は決め、立場を明確にし、全体を総括する立場の人を作った上で、市民協働を進めていければ、よりスムーズに事業が進んでいくと考えられる。

「対象となる来場者～市内か市外か～外からの視点」

市職員：服部 達哉(秘書広報課)

主な担当：広報・屋外イベント(10周年祭)

5月6日(月・振)の12時以降に行われたイベントを本稿では10周年祭と表現する。

さて、10周年祭の目的はなにであろうか。仮に目的が集客にあるとするならば、この10周年祭は成功であったといえる。クイズラリーの参加者が1,000人を超えたということは実際の来客数はその2～3倍以上は確実にあったと考えられる。クイズラリー担当として受付をした限り、用紙を受け取り実際に回答を記入しに来たのは親や祖父母に同伴されてきた子どもが多かったためである。つまり、子ども1人～2人に対し、親・祖父母が2～4人はいると考えられるので、クイズラリー参加者×2～3倍以上が来場者であるというのは控えめに考えても妥当な数字となる。

しかし、ここで問題としたいのは数ではなく、来場者の滞在時間である。というのも、もし10周年祭の目的が市外・県外からの来場者を期待していたとすれば、今回の企画では集客できないと考えるためである。例えば屋外イベントの開幕と同時に来た人がクイズラリーをしながら会場を回ったとしても、確実に1時間で見える者はなくなると見込まれる。否、正確に言えば見るものがなくなり手持無沙汰になり帰ってしまう。実際に県外から来た身内から意見を聞いたので間違いはない。電車などの時間もあり、特に人と会う約束などが無い限りはクイズラリーの抽選発表までは会場にとどまってはいい、いったん名古屋のホテルに戻ったとのことである。わずか1時間の滞在のために市外や県外から来場するという人はあまりいないはずである。

市内の住民が休みの日にぶらりと立ち寄り、また抽選の時間にもどってくるということを想定しているのであれば、10周年祭の時間設定は合理的である。それぞれの出し物がぶつかり合わないよう時間をずらして考えられている。しかし、それでも市民創作朗読劇が始まってしまえば、クイズラリーと展示、市民茶会が頼りとなり、新しく来場者を呼び込むことが困難な時間帯となってしまう。そうであれば、一日中続く目玉となる企画が必要であるということになる。

では、どのようなものが考えられるか。

例えば、なにか食べ物のコンテストを開く。例えば、お菓子、デザートであれば多くの人に訴えることが可能であり、実際に作るものを食べたいと思う人は会場に足をとどめると考えられる。食べ物のコンテストであれば、調理時間がかかるため来場者の滞在時間は長くなる。

もし、市外や県外からの来場者を期待するイベントがあるのであれば、会場に長く足をとどめても仕方がないと考えさせるスケジュールとぜひもっと見たい、とどまっていたいと感じさせる出し物が必要となる。

「瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会に参加して」

市職員：井川 千晶(企画財政課)

主な担当：ボランティア

平成25年4月から5月6日の記念事業までの1ヶ月間、本番が近づき慌しくなる中で準備に加わらせて頂きました。はじめは、実行委員の皆様をはじめ市役所職員の顔と名前を覚えることから始まり、一般ボランティアの方々の取りまとめ担当として説明会や当日の役割分担、タイムスケジュール作成等を行いました。

一般ボランティアとして、当日40名の方にご参加頂きましたが、想定していた配置より必要人員が少なかったり、指示が全体に行き届かなかつたりするケースがあり、各場所で指示者を明確にするとともに、一般ボランティアにもチームを設けて、組織的に仕事をお願いする必要があると思いました。また、必要

人数以上の参加者がいる場合には、午前・午後にわかれてボランティアに参加してもらうなどの対応も必要かと感じました。

今回の10周年記念事業では、市役所職員だけでなく、市民の方と協働で行うことで、多様な立場からの意見が生まれ、より市民目線のイベントが計画でき成功できたのではと思います。大きな節目のイベントに、最後の短期間ながら、事務局の一員として携わることができ、良い経験ができました。



**記念事業にご協力いただいた皆様に、
心より御礼申し上げます。**

VI 資料

委員名簿

(順不同)

区 分	氏 名	所 属 等	備 考
団体推薦	江間 安男	瑞穂市自治会連合会	会 長
	福野 佐代子	教育委員会	副会長
	稲越 鏡彦	瑞穂市文化協会	
	若園 昭男	瑞穂市体育協会	
	北倉 利治	なかよしクラブすなみ	
	河野 秀明	瑞穂市商工会	
	高田 里美	瑞穂市柿振興会	
	棚橋 和子	みずほ女性の会	
	名和 めぐみ	瑞穂市社会福祉協議会	
公 募	安藤 由庸	公募委員	
	栗田 清	公募委員	
	武田 由美子	公募委員	
	馬淵 浩史	公募委員	
	豊田 英二	公募委員	
学 生	井上 珠姫	朝日大学 (学生)	
	鹿島 梨帆	朝日大学 (学生)	
	小島 正輝	朝日大学 (学生)	
	田村 悠太	朝日大学 (学生)	
アドバイザー	中村 良	朝日大学 准教授	

市職員名簿（企画部）

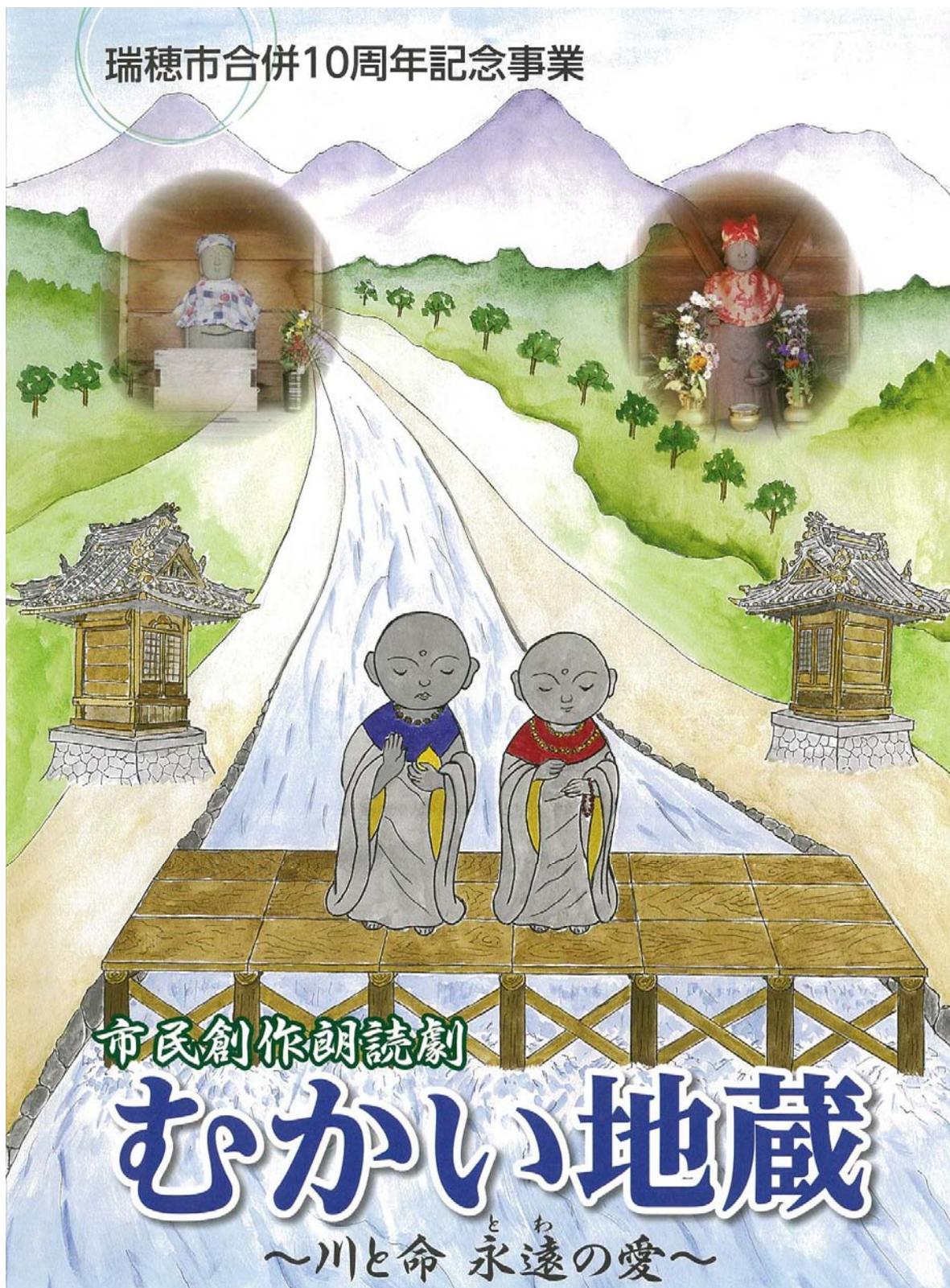
（順不同）

所属等	氏 名	主 な 担 当
企画部長	森 和之	事業統括
秘書広報課	児玉 等	記念式典
	山本 康義	記念式典
	児玉 太	記念式典
	西村 陽子	記念式典
	小野 由美子	記念式典
	島田 将志	市民の歌制定
	森川 正	記念式典
	平林 玲央	広報・ガイドマップ制作
	服部 達哉	広報・屋外イベント（10周年祭）
企画財政課	高山 浩之	わたしたちの郷土を知る写真展
	佐藤 之則	ガイドマップ制作
	松島 孝明	市民創作朗読劇 むかい地蔵
	馬淵 好人	市民創作朗読劇 むかい地蔵
	藤橋 克年	屋外イベント（10周年祭）
	庄司 洋	屋外イベント（10周年祭）
	宇野 佳一	屋外イベント（10周年祭）
	棚橋 美佳子	家庭で出来る柿料理レシピ
	望月 宏太	家庭で出来る柿料理レシピ
	井川 千晶	ボランティア

会議等開催記録

開催日	主な内容	開催日	主な内容
H24・7・27	第1回 実行委員会 委員委嘱・取り組み案件	H24・12・27	第12回 実行委員会 企画書・予算
H24・8・7	第2回 実行委員会 イメージ・テーマ選定	H25・1・17	第13回 実行委員会 進捗状況・役割分担当
H24・8・30	第3回 実行委員会 イメージ・テーマ選定	H25・1・24	第14回 実行委員会 全体スケジュール
H24・9・11	第4回 実行委員会 テーマ・事業内容	H25・2・12	第15回 実行委員会 進捗状況・PR手配
H24・9・25	第5回 実行委員会 具体的な事業内容	H25・2・27	第16回 実行委員会 市長・議会へ企画報告
H24・10・9	第6回 実行委員会 実施事業について	H25・3・12	第17回 実行委員会 進捗状況・PR活動
H24・10・25	第7回 実行委員会 ウケグリー・記念式典	H25・3・29	第18回 実行委員会 進捗状況・日程調整
H24・11・6	第8回 実行委員会 ウケグリー・記念式典	H25・4・9	第19回 実行委員会 ボランティア配置
H24・11・22	第9回 実行委員会 ウケグリー・記念式典	H25・4・18	第20回 実行委員会 ボランティア会議
H24・12・4	第10回 実行委員会 マップ・メイン事業	H25・4・26	第21回 実行委員会 進捗状況・スケジュール
H24・12・10	第11回 実行委員会 企画書作成・役割分担	H25・5・2	第22回 実行委員会 最終確認
<主な実施事業> H25・1・30 市民創作朗読劇スタッフ会議 H25・2・3 市民創作朗読劇オーディション H25・3・31 朗読劇ヒット祈願参拝 H25・4・3 出店者会議（屋外） H25・4・17 出演者会議（屋外） H25・4・30 ボランティアスタッフ説明会		H25・5・6	記念式典 みずほ10周年祭
		H25・5・24	第23回 実行委員会 今後の予定
		H25・10・10	第24回 実行委員会 柿レシピ事業
		H26・1・29	第25回 実行委員会 全体総括

市民創作朗読劇「むかい地蔵」パンフレット



瑞穂市民の歌

瑞穂市民の歌 - 宇宙へ - そら

J = 96~102

あかるく ゆたかに

作詞 上嶋 昭子
補作 後藤 左吉
作曲 大沼 智幸

1. なれみ がまら うれしい ゆひか たろな かがで なるる わわわ ががが まままま ちちち ははは
2. なれみ がまら うれしい ゆひか たろな かがで なるる わわわ ががが まままま ちちち ははは
3. なれみ がまら うれしい ゆひか たろな かがで なるる わわわ ががが まままま ちちち ははは

5 ひがあ とんじ のかさ わのい つかは なあえ くりる さみゆ くちめ らての みいま ちるう

9 こしこ こあこ ろわろ をせむ かかか よみら わした せめも いほす きこら や きしか とくこ

13 はみじ ずおと このか こあか ういや にまき ちかは かたほ らりた わついで たくて たたた すすす けけけ あああ いいい さささ さささ えええ あああ いいい きまの ずなひ

17 こぼよ ううう いかそ まんじろ きに入 あああ 二 あああ 二 ふうふう

21 さささ ととと みみみ すすす ほほ 二 ほ

瑞穂市民の歌 - 宇宙へ - そら

作詞 上嶋 昭子
補作 後藤 左吉
作曲 大沼 智幸

一 流れ豊かな わが市は
人の輪つなぐ 桜みち
心を通わせ いきいきと
弾む心に 力湧く
助け合い 支え合い
築こう 現在を ああ
ふるさと 瑞穂

二 歴史広がる わが市は
文化の香り 満ちている
幸せかみしめ 誇らしく
祖先の愛を 語りつぐ
助け合い 支え合い
学ぼう 過去に ああ
ふるさと 瑞穂

三 未来奏でる わが市は
あじさい映える 夢のまち
心も体も 健やかに
ひとみ輝き 羽ばたいて
助け合い 支えあい
伸びよう 宇宙へ ああ
ふるさと 瑞穂

わたしたちの郷土を知る写真展

「素敵な作品投票」上位10作品

順位	作 品	得 票	お 名 前	備 考
1	美江寺城跡 	89	林 道子 様	最優秀賞
2	(犀川堤) 	81	柴垣 雄次郎 様	優 秀 賞
3	桜並木の雪景色 	78	馬 淵 義明 様	かきりん賞
4	銀杏の小道 	55	岩田 忠勝 様	
5	瑞穂市の夕暮れ 	51	田 村 明 様	
6	雪の牛牧閘門 	49	河 村 力 様	
7	桜のトンネル 	47	大澤 弘子 様	
8	桜咲く頃 	40	市岡 丈司 様	
9	レールバス・美濃路 快走 	36	栗 田 清 様	
10	川漁 	33	野川 速雄 様	

家庭で出来る柿料理レシピ

瑞穂市合併10周年記念事業 「家庭でできる柿レシピ」



瑞穂市合併10周年記念事業の1つとして「富有柿を使った柿レシピ」の募集を行いました。本日は最優秀賞に輝いた1作品と、応募のあった作品の一部を紹介します。

試食会 開催 13時予定

11月2日 フェスタ会場にて なくなり次第終了

瑞穂市合併10周年記念事業 「家庭でできる柿レシピ」



広報みずほ 11月号にもレシピを紹介しています

制作 瑞穂市合併10周年記念事業実行委員会

柿と明太子のチーズPasta

(材料 2人分)

富有柿	1個
パスタ	160g
辛子明太子	2腹
レモン果汁	小1
オリーブオイル	大1
塩	適量
クリームチーズ	適量
パセリ	適量



今日の試食の
レシピだよ

11月27日(水)~12月2日(月) 限定

瑞穂市別府の「カフェテラス とらいあんぐる」さんのランチでこのPastaがアレンジされて登場です!!!



＝作り方＝

- ① 鍋にたっぷり湯を沸かして、塩を入れ、Pastaを茹でる
- ② 富有柿は極細千切りにする
辛子明太子は薄皮から出す
- ③ ボウルに②、レモン果汁、オリーブオイルを入れてあえ、柿をしんなりさせる
- ④ Pastaを③に入れてあえ、塩で味を整える
角切りクリームチーズを入れる
- ⑤ 皿に盛り、パセリを飾る

パセリを水菜にしてもさっぱりしておいしいですよ

